

下諏訪町 郡の西北方和田嶺の麓に位し、南方諏訪湖に臨む。昔時中仙道と甲州街道の分岐點なりしが、明治以來製絲工業地として發達し、工場數十餘戸、工女約五千人を包含する。神都と泉都此町は諏訪神社下社春秋兩宮の存在によつて、其發展の基礎を爲し、又温泉の湧出一層之を助けた。温泉は十五ヶ所の源湯湧出量、一時間三百六十一石、之を引湯又は分湯し、温泉旅館十二、内湯温泉十、其他合計四十浴場ある。【旅館】 龜屋(電二三) 丸屋(電三三) 桔梗屋(電二四) 鐵鑛泉(電六三) 中川(電二一三) 菅野館(電一七) 信濃屋(電一四) 港屋(電一四四) 外屋(電一二〇) 裏龜屋(電二二一) 岡谷市 諏訪湖の西北岸、天龍河口に臨む。戸數六千。人口四萬五千人。本邦最大の製絲業地である。湖を隔て、東南八ヶ岳の大嶽に對し、又遙かに富嶽を望み、景勝の地である。市長は今井梧樓氏。明治以前微々たる農村であつたが、製絲業に努力、次第に發展して十一年一躍市となつた。製絲工場數八十餘、職工一萬數千、生絲の年産五十餘萬貫、價格數千萬圓に達し、久しく日本一の産業を歌はれて居た。現在狀況は變化したが、兎に角日本の有力産業を築き上げた此地方人の堅忍不拔の努力は歴史上に不滅の光りを放つに足るものである。【鹽尻嶺と鹽嶺莊】 鹽尻嶺上から諏訪湖及湖岸一帯を見下す景色は實に稀有の絶勝で、舊道嶺上には、明治天皇御野立の聖蹟がある。昭和八年史蹟保存の指定を受け、附近一帯を御野立公園と稱し、公衆大休憩所・テニスコート等を設けた。嶺上には鹽嶺莊といふ旅館が新築されて、温泉もあり、訪客に便して居る。岡谷驛より乗合自動車二十分で、峰の茶屋に達す。それより鹽嶺莊は直ぐである。因に峠下今井區今井梧樓氏(岡谷市長)の邸には、明治天皇御小休あり、玉座の間御調度品其儘保存されて居る。山浦地方温泉 前記蓼科及八ヶ岳山腹地方には温泉鑛泉多く、古來山浦の湯として知られた。最近は東京方面の客多く、好個の健康地に推されて居る。瀧温泉 茅野驛の東北一六軒、諏訪郡北山村に屬す。蓼科諸温泉中最古の歴史を有し、ラヂウム含有鹽類泉で諸病に有効。【旅館】 瀧温泉湯元ホテル(電蓼科七) 綠山温泉(電蓼科三) 其他小齊蓼科、親湯、明治、澁等各處に散在して居る。

天龍川流域地方

諏訪湖を發した天龍川は、殆ど眞直に南下する。右に木曾山脈あり、左に赤石山脈あつて兩岸の堤の如く川を護る。谷間平地極めて狭きも、亦別種の乾坤である。赤石山脈の如き、日本の最も高山多く、山幅の厚き地方を爲し、其處には原始の森林畫闢く茂つて居る。山水自然の秀靈と共に人情も古へに純粹にして、興國以來宗良親王を護りて、忠義の旗を、此山奥に建て通したる如き、當時に慘澹の苦心を極めしも、今日には日本歴史の光輝として、讃仰されて居る。南方信三の境の如き。嶮嶺重疊、天龍の之を突破する苦難を極めたるが、最近此地方人も亦不屈の精神を鼓して、此難關を打破して、鐵路を東海に開通せしめ得た。精神至純にして、能く艱險克服の勇氣あるものは、此地方人の特

色である。信濃を出でて、鐵路は必しも天龍とは伴はぬが、東海道の中心地方を、茲の關聯地方として併記する。

辰野（長野縣上伊那郡伊那富村中央本線辰野驛）を起點とする伊那電鐵は南下、伊那町、飯田市を経て、天龍峽に達し七九軒八、三信鐵道に接し、同線は三河河合に鳳來寺鐵道に、鳳來寺線は長篠に豊川鐵道に接し、豊橋市に至る。三線合して一一二軒二、伊那電を合して一九二軒。此間山水双秀、殊に三信線の如き、信三境の溪谷に百七十一個の墜道を穿つ。従つて左右の光景絶奇、眞に飛龍に駕して別天地に遊ぶの概がある。其漸く東海の平野に出で、洗滌の海に臨むに及んで、山と水との飽滿を感じる。辰野は伊那谷の咽喉として、有力の地位を占めて居る。 **伊北農商學校** 伊那富村字宮木の高臺上にある。主として同村出身の有力實業家武井覺太郎氏の寄附によつて成立つて居るが、校長は農學士北澤小八郎氏で、久しく大陸にも活躍した人。剛健質實にして、而も進取の氣象に富んだ一種特色ある教育振りは、各方面の尊重する所となり、入學志望者も遠近から集り、校舍狹隘を告げ大増築をし、巍然たる壯觀を持つに至つた。此地方の一名物である。 **伊那町** 上伊那郡の中心重要地位に在る。戸數四千、人口二萬。【旅館】箕輪屋。 **高遠町** 上伊那郡の東部三峰川と藤澤川との會合點にあり、伊那町の東八軒餘、道路平坦、自動車約三十分。又中央線茅野驛から西し、杖突峠を越える權兵衛街道からも通ず。乗合自動車があり一時間半で達す。南アルプス諸峰への登山には三峰川

溪谷より入るが便利で、高遠は其門戸となつて居る。南北朝の頃、木曾義仲の後裔義親、茲の城主となり、姓を高遠と改め、城を高遠城と稱したが初めである。戰國の時武田氏此地を占領して、南信方面の策源地とし、仁科五郎信盛を城主とす。信盛は信玄の第五子であるが、安曇の仁科氏を滅し、其家名を繼がしめたのである。信玄死し勝頼嗣ぎ、天正十年二月織田信長大舉甲州に侵入し、嫡子信忠五萬餘騎を以て高遠城に迫るや、信盛三千の寡兵を以て能く之に抗し、敵膽を寒からしめ、壯烈なる戦死を遂げた。時に年十九才。關ヶ原役後、徳川氏の元祿四年内藤清枚三萬三千石を以て入城し、八世百八十年頼亘に至つて維新となつた。明治以後伊那町が發達し、勢力西漸したが、其代りには人々奮起し、舊藩時代からの養成の結果と相俟つて、人材各方面に彬出するに至つた。戸數一千、人口五千。町長廣瀬常雄氏努力大に町政を振興した。【高遠公園】高遠城は明治廢藩の後毀たれ、七年公園となつた。中央廣場は舊本丸で、其西南隅の太鼓櫓は、舊藩時代から引續いて、時を報じて居る。高遠は到る處風光明媚だが、就中公園の展望最も優れ、西南三峰川を隔て、西駒連峰を望む所、甚だ雄大。 **高遠の櫻** 高遠公園内櫻樹最も多く、園内殆ど花に埋まる。而も樹種は他地方のものとは全然異なる小彼岸櫻で、高遠櫻と命名され、縣の天然記念樹として指定されて居る。其純林叢數千株に及び雅致に富める老木の姿態と、淡紅を含める艶麗の花とは、兩々相俟つて艶美なる上に、花雲を隔て、西駒の白雪を望む所、實に天下の稀觀、日本一の稱も溢美でない。花期は四月中旬から五月上旬まで咲

き亂れ、地方人士第一の行樂のみならず、都會地方からも、態々遊覽の客少くない。町では櫻樹保護の爲めに、随分努力をして居る。猶公園中央に此地出身有力諸氏の寄附に成れる高遠閣新建され、眺眺休憩の場に充てられてゐる。 縣社鉾持神社 鉾持神社は伊那地方に於ける最有力神社の一つで、今を距る一千餘年前の和の二年信濃の國司源爲之の奉祀に係る。祭典は四月十五日で隔年に大祭を執行する。大祭は十三・四・五の三日に亘り、全市に亘つて各町異様の調子を以て囃しが行はれ、古風の情調甚だ優雅を極め、古典的の郷土風俗を現はす。 赤石山系 中部日本の脊梁を爲す深山地帯を形成る赤石山系は其北半を南アルプスとして知られたが、信・甲・駿の三國に跨り、赤石を盟主とする赤石山脈、白根北岳を盟主とする白根山脈、甲斐駒ヶ岳を盟主とする甲斐駒山脈の三派に大別し、其等の中に富士・大井・天龍三大川を養成して居る。甲斐駒山脈は南アルプスの最北部に在つて、甲州西部を東南行し、駒ヶ岳(二九六五米)を主峰として、北に鋸岳(二六七〇米)、南に鳳凰山塊の觀音(二八四〇米)、薬師(二七六二米)、地藏(二七六〇米)諸岳を起すもの、即ち中央線の窓中より認めらるゝもの。白峰山脈は白根三山と稱する北岳(三二九二米)間の岳(三一八九米)農鳥岳(三〇二五米)を連ね、略ほ南北に延び、他兩山脈の中間を走り、西は大井川を隔て、赤石山脈に對し、東は富士川上流の谷を抱いて、鳳凰山塊に對して居る。赤石山脈は南に美半島方面から、東北天龍・富十兩川の間に連亘し、赤石(三二二〇米)、荒川(三〇八三米)、惡澤(三二四六米)、鹽見(三〇四六米)、仙丈(三〇

三二二米)の諸高嶽を起して居る。南アルプスの特色は、日本の最高山岳を、殆ど茲に呼集めた如き高山群なることにある。即ち日本内地の三千米以上の高峰は十六座を數へるが、其中八座まで此山系に存在する。殊に富士に次ぐ高峰北岳を有して居る。登山路設備等も近時伊那方面の大いなる努力の下に段々良好となつて來る。 登山路 に對する登山路は甲州及靜岡縣方面からもあるが、信濃側は、北部東駒・仙丈・白根山系へは、伊那電伊那町驛から、高遠町に赴き、戸臺口等よりし、中部赤石方面は同電伊那大島驛から、大河原及鹿鹽口へ、南部聖岳方面は、三信鐵道滿島驛から、遠山口に依るを捷徑とする。 北部連峰方面 東駒ヶ岳・鋸岳・仙丈岳・北澤峠・釜無連峰・白峰三山・鳳凰山・鹽見岳方面へは伊那町驛(同町入舟驛)に下車、同町より貸切自動車又は乗合自動車にて高遠町を経て、戸臺口又は市ノ口に至るを便とする。

(中部及南部別出) 伊那高遠間自動車三十五分、四十錢。高遠黒河内(戸臺入口間)自動車四十分、五十錢。高遠市ノ瀬間自動車一時間、七十錢。高遠町 上伊那郡高遠町、高遠商工會山岳部。【旅館】竹松屋、木曾屋、松田屋、柳屋。市ノ瀬口 上伊那郡伊那里村字市ノ瀬、伊那里山岳會。市ノ瀬—小瀬戸—荒川渡 鹽見岳、三國岳市ノ瀬—杉島—仙丈岳。同中尾—地藏峯—仙丈岳。

【旅館】橋本屋、みどり屋、(一泊二圓以上) 戸臺口 上伊那郡美和村字美和案内人組合事務所竹澤長衛方。

木曾山脈 本會・天龍二川の分水嶺を爲す木曾山脈は、北・南兩アルプスに對して、又中央日本アルプスに對して又中央日本アルプスと稱せられる。駒ヶ岳を首座として、南北に連亘する一大山脈で、上

伊那・西筑摩兩郡の境界を爲す。首座駒ヶ岳は、木曾駒或は西駒と稱して、甲斐駒ヶ岳と區別する。絶頂を本岳（一九五六米）と呼び、東方に前岳（二八八三米）、東南に寶劍岳（一九三三米）あり、更に南に走つて空木岳（二八六四米）、南駒ヶ岳（二八四二米）を起し、越百山・念丈ヶ岳となつて下る。北方は茶臼山（二六五三米）、烏帽子岳（二一九五米）、權兵衛峠（二五二二米）、坊子岳（一九六一米）の連山から松本平に落ちる。北アルプスの深さと、南アルプスの高さには及ばぬが、而も雄姿天界を睥睨、堂々たる山嶺である。駒ヶ岳と宮田 駒ヶ岳は全山花崗石より成る美山で、頂上は眼界廣濶。登山口は西の方木曾方面と、東の方伊那方面と兩様あり、伊那方面にも、北に伊那町口・小出口あり、中央に宮田口、南部に赤穂口があるが、宮田口を便利とし、同村は夙に山岳會を設け、最も力を入れて登山の便宜を講じて居る。赤穂町 上伊那郡南部の中心地で、戸數三千、人口一萬六千。伊那電鐵の支社は此驛にある。登山に關する一切の照會は左記へ宛てらるゝ事。

長野縣上伊那郡赤穂町伊那電氣鐵道株式會社運輸課又は同社内上下伊那聯合山岳會。東京市麴町區丸ノ内一丁目六番地東京梅上ビルディング内伊那電氣鐵道株式會社。

【登山旅客季節割引】（自七月一日至九月末日）夏季登山客に對し社線で乗車券購求の場合に限り片道往復ともに乗車賃五割引。

靈劑養命酒 養命酒の名は、天下に轟き誰れ知らぬものなき迄に至つたが、起死回生の効眞に顯著で

不思議の靈藥とされて居る。これは南アルプスの東麓、天龍川の絶壁に沿ふ上伊那郡南^{ムナシ}向村の鹽澤家に家傳の雙酒であつて、同家は宗良親王を奉じた勤王の舊家で、家世仁恵に富み、或時仙翁來遊して謝恩の爲めに傳へた秘法を漸次に世に施したものであるが、その靈驗に感じて、人々四方に傳へ、今日では非常の産額を示すに至つた。醸造本家は天龍館と稱し、板戸橋畔に宏大なる醸造所を有して居る。文士として其名を馳せた故中澤臨川氏、又バイアス灣上陸以來英名を謳はるゝ海軍大將鹽澤幸一氏兄弟は同家の出身。天龍館經營の主任は宮下直雄である。大島（伊那電大島驛）南アルプス南部登山口たる大河原口・鹿鹽口等に赴く下車驛として重要地である。驛より中途落合まで乗合自動車が運轉して居る。信濃宮神社創建 赤石山奥、小澁の山流に沿ふ山奥の一村下伊那郡大鹿村は、宗良親王擁護の根據地として、今は日本歴史上に尊敬を受くる一名所とはなつた。村は戸數一千、人口五千、昔の大河原・鹿鹽二村を合併したのである。宗良親王は後醍醐天皇の皇子で、興國五年以來來三十七年間、大河原の天險を根據に、征東將軍の重任を負ひ、關東の官方を糾合し、王權恢復に努められた。此間信濃の武將にして官方に馳せ参じたるは、香坂高宗を首とし、知久祐超黒河内一太郎等與其他諏訪頼繼、千野頼寛や北信の滋野・望月の族安曇の仁科氏等官方であつた。親王御終焉の地として遠州に井伊谷神社が祭られて居るが、近時の研究は親王大河原薨去説が有力となり、一昨年此地に宗良親王を主神とし、香坂等を配祀する信濃宮神社創立が認可せられ、四十萬圓の經費を以て進行

中である。【鹿鹽の湯】大鹿村鹿鹽には天然の鹽泉湧出し、これを沸かして浴場として居る。南アルプス登山口 南アルプス主峰赤石岳を中心として、荒川三山・山伏峠・聖岳・大澤岳・兎岳・光岳易老岳・加々森山方面は、前記伊那電鐵伊那大島驛に下車して大河原口及び鹿鹽口に至るを便とする大原河口 伊那電大島驛下車、下伊那郡大鹿村役場内、大鹿山岳會。大河原―釜澤―(小澁の湯)―廣河原小屋泊―大聖寺平―赤石岳頂上―大聖寺平―荒川小屋。【旅館】丸川旅館、赤嶺館、小椋旅館、白川屋。鹿鹽口 下伊那郡大鹿村役場内、大鹿山岳會。大島驛下車(乗合自動車)―北條―大鹿村落合―鹿鹽。鹿鹽―鹽川湖行―三伏小屋(鹽見岳方面及赤石方面)。【旅館】山鹽館、鹽湯館(兩館ともに天然湧出の鹽水浴場あり)。

飯田市 下伊那郡の稍北部に位し、西方木曾山脈に續く風越山下の段丘上に在り、南東天龍流域平野を見渡し、優勝の地である。參州街道は南北に貫通し、大平街道は西大平峠を越えて、木曾三留野に赴き、秋葉街道は東南向し、直ぐ先の松尾村より更に遠州街道を發し、飯田市は扇子の要の地を占め織田・豊臣・徳川の初期まで種々領主の變遷を経たが、寛文十二年堀親昌飯田城に移封。十世親廣に至り、明治となり藩籍奉還、二十二年町制實施、昭和十二年市制を布いた。戸數七千、人口三萬八千南信に於ては松本岡谷に次ぐ有力の都會である。【旅館】蕉梧堂ホテル(扇町電七九)、常盤館(上常盤町電一六〇)、吉野屋(主税町電三七)、同別館(驛前)。【宿料】一泊四圓乃至八圓。交通 市内は五錢均一バスが主要區間を運轉、外部方面との聯絡は次の如くである。飯田三留野間 觀光の名地大平峠

を経て、中央線三留野に中央線に聯絡する大平自動車は、毎日定期六回、省線と連帶運轉をする。料金片道一圓八十錢。下記は南信自動車バス、飯田市―駒場間、飯田市―阿島間、飯田市―新野間、飯田市―座光寺間、飯田市―下久堅間。【太宰松】春臺太宰純先生出生邸址に一本の老松ありて『太宰松』として保護されて居る。(上荒町)【烈女不二の墓】箕瀨町長源寺の境内に在る。主家の爲め藩主の愛妾を刺し、從容死に就ける烈女山口藤が『信濃なる山路の雪と諸共に春をも待たで消ゆる今日かな』の辭世の歌を刻した墓石には、香華の絶ゆる時がない。縣社白山神社 市の西方風越山頂に白山神社の奥社あつて、伊弉諾命・菊理比賣命・大己貴命を祀る。養老二年の建立、室町時代再興、神殿は莊麗幽雅、國寶に指定された。裾野に里宮あり、南信一の宮と稱せられ、昭和九年十月縣社に昇格、例祭は秋季十月一ヶ月の長期に亘る特殊な祭り。【大平街道】中央線三留野驛より中央アルプスを横斷し、飯田市まで四十八軒、幅員三間の縣道は、山間稀れに見る良道で、風景絶佳、最高所大平峠は海拔一三六〇米、北は御岳・乗鞍・槍ヶ岳より、加賀の白山、南は惠那山の雄姿に接し、木曾の御料林を見下す絶好處。天龍峽 (長野縣下伊那郡川路村)三信鐵道起點、伊那の大いなる誇りの一つは天龍峽である。峽は飯田市の南辨天島から下流三十里、天龍川沿岸の勝景であるが、諏訪の湖を發して蜿蜒長驅、南・中兩アルプスの峻嶺間を突破した天龍は、茲に至つて花崗岩の鐵壁に遭ひ、渾身の力を揮つて之と闘ふこと幾百年、何時しか之を突破して、兩岸に峨々たる絶壁を開き、紺碧の

軀を躍らして此間を過ぐれば、飛沫雪より白きを見るのである。兩岸既に鬱蒼たる樹木を生じて兩者血戦の跡を渾然美化して居るが、秋の紅葉に至つては、再び其血を思はせる。三信鐵道満島驛より船で流を下り、中部天龍驛まで十二里を行けば、此峽の精髓を知る。飯田市の南半里辨天島から舟を備つて姑射橋邊を下るもなかくに興趣深い。【旅館】天龍峽ホテル 天龍峽遊覽旅客のため巨費を投じて、もと大磯海岸にありし紀州徳川頼倫侯の別邸を其まゝこの地に移し、更に現代文化に適合せる建築を加へたるもの、姑射橋の袂、天龍の流れに臨む絶壁の上に位置する。駒場地方 飯田市から三州街道南に十四軒、會地村駒場は古への逢地の關で、史興風光共に秀で、伊那西南部の中心地。西南は三州街道が浪合・治部坂等を経、國境近き根羽から三河の國に入り、又駒場から西方は古への官道で、神坂峠を越えて、美濃に入り、中津川に達する。日本武尊の取られた神坂越えも此道で、途中園原・帯木等名勝が多い。南アルプス南部登山口 南アルプス赤石・荒川・鹽見等に南部方面よりする登山路は、最も壯快雄健なるに係らず、未だ他方面の如き發達を見ざりしが、三信鐵道は大に茲に鑑みる所あり、一昨春特に山岳部を設け諸般の開發に任じ、第一着手として、赤石百間洞に完備せる大山小屋を建設し、又地元諸村とも聯結して、満島驛より下伊那郡和田村に通ずるバス路をも改修現在第一日を満島出發同郡上村北又に着、第二日は赤石岳に登攀、第三日歸還可能たるに至つた。案内人組合も同社と提携極めて低廉親切に之に従事しつゝある。天龍峽驛にて三信鐵道に乘換へ満島驛

下車、遠山川に沿うて上る。天龍川舟下り 『天龍下れば飛沫に濡れる持たせやりたや檜笠』天龍川舟下りの壯快は言語の及ばぬ所、川下りは北部南部の二つに分け、北部は上天龍下り、南部は下天龍下りといふ。上天龍下りは市田より辨天を経、天龍峽から門島に至る九里、下天龍下りは三信鐵道満島驛しんじょうから同中部驛ちゅうぶに至る十數里をいふ。下天龍下りに使用する舟は長さ七間半、僅に二十人乗せ、船頭は前後に三人又は四人、流水岩に激して急湍は矢の如く走り、千仞の斷崖下、深淵蓋の如く、岩盡きて山開け激流激を噴んで、飛沫雪よりも白き中を巧みに操り行く。別けても音に聞く水神の湍や山室の湍あたりの壯絶快絶は、到底言語に盡すを得ぬ。上天龍川下り 市田・辨天・天龍峽・間島間九里の舟下りは、天龍川舟行株式會社が創立され、大に便宜を圖つて居る。

區間及所要時間

賃金(二五人乗)

市田 (六里半) — 天龍峽二時間 一隻三〇圓、半隻(仕切)二〇圓

辨天 (四里半) — 天龍峽一時間半 一隻二五圓、一隻四五圓

市田 (九里) — 門島四時間 一隻四五圓

(一)定期乗合船は毎月一日・十五日・十七日、日曜日・祭日には暴風雨・洪水の外は午前九時半市田發航(中繼辨天午前十時にて)天龍峽間六里半を舟航する。(二)貸切船は即日にも間に合ふが、なるべく二・三日前申込の事。(三)毎年四月一日より十一月十五日まで營業。

下天龍舟下り 下天龍の方は三信鐵道満島驛を起點とする。定期乗合舟が出る(乗合券は三信鐵道満

島停留場で發賣)時は新緑の四月一日より紅葉の十一月三日迄の日曜・祭日・及一日・十五日で左の如くである。

| | | | | | |
|---------|--------------------|-------------------|------------|------|-----|
| 満島驛下 | 午前十一時三十分發船 | 小和田驛下 | 午後十二時三十分頃着 | | |
| 舟賃 | 大人 二圓五十錢 小人 一圓二十五錢 | 貨切舟(二十人乗)申込は二日前の事 | | | |
| 區 | 間 | 所要時間 | 賃金 | | |
| 満島……小和田 | 二時間 | 四十圓 | 満島……大嵐 | 二時間半 | 五十圓 |
| 満島……白神 | 三時間 | 六十圓 | 満島……山室 | 四時間 | 七十圓 |

鳳來寺 (愛知縣南設樂郡鳳來寺村)三信鐵道が三河川合驛で、鳳來寺鐵道に接する。同鐵道が南下、鳳來峽邊を過ぎて、鳳來寺口驛に來ると、茲から田口鐵道といふが西に分岐して、三河田口に赴く此鐵道の第二驛が鳳來寺驛である。其處から山道二十町にして鳳來寺の境内となり、長い石段をよつて本堂に達する。鳳來寺山は岬々たる巖山で、海拔二千三百尺、寺は山腹の所に在り、眺望極めて雄偉文武大皇大寶二年勅命建立。有名な佛法僧は四月中旬より九月中旬まで、殆ど全山に亘り夜を徹して鳴き、晝間にも稀に其聲を聴く。【旅館】小松屋旅館(電鳳來寺六)。鳳來峽と湯谷温泉 前記鳳來寺山を背にし、豊川の溪谷に臨み、風致最も富む。茲を中心にして南北二里程の間奇岩・清流・飛瀑綠山の諸ろの勝景を綴る一帯を鳳來峽とは名づける。名號池・ありませの瀧・琵琶の淵、幾多の奇觀皆附近にある。河鹿鳴く新緑の頃から、紅葉の秋かけて、湯谷から北横原、河合に及びこよなき探勝

地である。湯谷温泉 峽の中心地湯谷に湯谷温泉がある。鳳液泉と稱し、諸般の病症に效驗があり殊に景勝の地を占むるので、來浴者頗る多い。【温泉旅館】日永樓(料理兼業)(電三河大野一五番)。宿料二食付四圓―五圓。【長篠古城址】天正三年甲斐の武田勝頼と、織田徳川の聯合軍と戦つて、甲軍の運命を決した有名な古戰場は、鳳來寺口から四つ目長篠驛の附近で、奥平正信が其處に籠つたのである。其前鳥居驛近く鳥居強右衛門の墓がある。【信玄塚】長篠の次驛川路驛から五町、長篠戦の際甲軍將卒を葬つた信玄塚がある。舊盆十五日夜慰靈の爲めの火踊りの奇祭がある。【野田城】豊川線野田驛で、武田信玄が笛に誘はれて狙撃され、遂に死に至つたといふ野田城址のあつた所。其他此地方は武田・徳川交戦の土地とて、關係の史蹟が甚だ多い。砥鹿神社 (國幣小社)愛知縣寶飯郡一宮村鎮座、奥宮同郡本宮山頂鎮座、三河一の宮で、祭神は大己貴命、傳へていふ同神東方を開拓、三河の國に向ひ、同國第一の高地本茂山(當社奥社所在地の古名)に駐り給ふ。天武天皇御惱みの時、草鹿砥公宣卿を勅使として、煙巖山(鳳來寺山號)に遣はされけるが、此時同神の神託あり、歸洛奏問再び此地に來つて宮柱を立て神靈を鎮む。これを砥鹿の神社と申す。これより荒魂は本茂山に、和魂は大宮(里宮)に齋かれ給ふ。歴代皇室の尊崇篤く、醍醐天皇の延喜名神大社に列し、祈年幣班に入り、其外數度の奉幣及勅使參拜あり。慶長八年徳川家康、神領百石奥宮二十石を寄せ、歴代將軍先規に従つて寄進あり、三河吉田領主例祭に拜禮す。明治四年六月國幣小社に列した。五月四日の例祭を

一般に一宮祭と稱し、遠く駿遠各地より参拜者群臻、境内爲めに埋るの盛況を呈す。祈年新嘗の大祭の外特殊なる諸祭多く、何れも参拜者非常に多い。里社現在九千七百餘坪、本宮奥は二十二萬餘坪あり。歴代草鹿砥卿の子孫神主の職を司り、内藤・戸賀里・今泉・戸河里・戸加里の諸家世々禰宜家として繼承せしも、明治以來職制革つて、官司以下奉仕することゝなつた。豊川鐵道三河一の宮下車。本宮山及本宮講 二千六百尺の高峰東海の表に屹立して、眺望眼を遮るものなく、高く富士の靈峰を雲表に瞰め、眞に神山たるを覺ゆ。各地の参拜者來つて神域に参籠し、就中新舊正月は、参籠所に身を清め、初詣でするもの數千人に及ぶ。表山道の外諸處の参道何れも然く困難でない。朝廷の感謝厚きと共に、民間の信仰も深く、賽者終年絶えぬ外、曩に本宮講を結び、多數集つて信仰を廣めて居る奥宮は豊川鐵道長山驛下車。 豊川稻荷 (妙嚴寺) 豊川鐵道三河一の宮驛の直ぐ南が豊川驛で、茲に豊川稻荷のお寺がある。豊川驛は毎年三百五十萬の信徒を乗降せしむることゝて、東海道一の立派な驛と謂はれ、階上には全國特産の粹と、豊富な土産物とを集めた豊鐵のデパートとがある。普通に豊川稻荷として知られて居るがお寺は圓福山妙嚴寺と稱し、又豊川閣といふ。お稻荷さんは佛教の方では吒^ク呎^ニ眞天で、妙嚴寺山門の守護神に當る。此寺は曹洞宗に屬し、本山は越前永平寺である。永平寺の開山道元禪師の弟子に寒巖禪師があり、その六代の法孫に東海義易大和尚といふ高僧があつて、此地に妙嚴寺を創建したのである。寒巖禪師渡支歸朝の際靈神あり、禪師の護法教化を助く。禪師感

激、歸來形像を刻み其徒に教へて信仰せしめた。東海義易禪師この妙嚴寺創開の時、山門鎮守として之を祀る。文祿年門九鬼嘉隆朝鮮役中、第一戰艦伊弉丸に此の神を安置し、徳川家康亦之を信じ、幕府の名判官大岡越前守忠相も、其の信徒の一人であつた。今東京赤坂表町なる豊川稻荷は、元大岡家の所祭であつたもの、明治九年の官令で、獨立して妙嚴寺の出張所としたものといふ。明治二十七年默堂禪師本殿改築發願、宮内省内匠寮技師樋口正峻氏設計、四十一年起工、二十年餘を経て昭和五年三月竣工、總樺造り近代無双の大建築は、國寶ものと稱せられて居る。大祭 豊川吒^ク呎^ニ眞天の大祭は年四回で、第一大祭舊曆初午、第二臨時大祭四月二十一・二十二日、第三大祭十月二十一・二十二日、第四大祭十二月二十一・二十二日、第一大祭初午には櫻馬場にて競馬、第三大祭は三州名物の花火、第四大祭は大提燈祭で、何れも見物群至する。其外妙嚴寺に多くの祭會がある。常在布教師は軍隊方面其他は工場會社在家方面に努め、寺内に専門僧堂あり、青年僧侶を養ひ、私立青年訓練所、私立豊川學堂等がある。 豊橋市 三信線の目標は、東海道線豊橋市と、信濃山國との聯絡にあつた。その豊橋市は、愛知縣三河國の東南に在り、三河灣に臨み、地勢平坦、氣候温暖、全國有數の健康地で、人口十五萬、中部日本の一大都會、諏訪と共に、本邦生絲業の二大中心地に推さる。東海道本線は市の中央を走り、静岡縣掛川より此市に至る二俣線、渥美半島を縦斷する渥美線、名古屋を起點とする名古屋鐵道、三信風來聯絡の豊川鐵道皆此市に入り、大系線全通すれば、太平洋と日本海との聯絡は

完成し、豊橋港の築港と相俟つて、前途洋々たるものがある。観光方面には、前述砥鹿神社・豊川稻荷・鳳來寺其他附近神社佛閣名勝舊蹟甚だ多く、是れ亦此の市に取つて繁榮の一大要素たるに當る。

【旅館】岡田家(驛前電三一五五番)、村田屋(清水町電三一四五番)、壺屋(驛前電二一四三番)。蒲郡町愛知縣寶飯郡の西部に位し、五井の連山を北西東に繞らし、南は三河灣に臨み、渥美・知多の半島を兩翼として、中に翠滴たる竹島・大島・小島・鷗島等を點じ、氣候溫和にして空氣清亮、風光最も明媚戸數三千四百、人口一萬九千、産業都市である一面、健康都市である。その恵まれたる自然美に依つて鐵道省觀光局より、國際觀光ホテル建設地としての指定下に蒲郡觀光ホテルを建設し、大衆遊覽客の爲に竹島橋・鉢地坂觀光道路・蒲郡遊園地其他あらゆる近代設備を完成した。省線の東西に通する外、名古屋鐵道の電車は、蒲郡に近き本宿驛を経て豊橋に至り、三河鐵道は、新蒲郡より西浦・幡豆刈谷に至る。バスは觀光バスは名鐵本宿驛より、蒲郡海岸を聯ね、又蒲郡遊園地より五井山公園登山口に至る。其他他豊川行・西浦行がある。又蒲郡商港は二千噸級の船舶の碇泊自由にして、定期船は毎日九時伊勢二見鳥羽に赴き、渥美半島福江港へは毎日正午、夏期は三河大島行も出る。航空路は蒲郡遊園地から伊勢二見へ赴く。【島巡り】竹島其他諸島へモーターボートにて約五十分。【海水浴場】常盤館前約一帯、三河大島。【新箱根ドライブ】、【乃木公園ドライブ】、【竹島辨天參詣】、【物産陳列館】蒲郡ホテル(電三二・四三番)、國際觀光局第一回指定に應じ、既設國風旅館、常盤館の上丘建

築、常盤館(電六・三九番)、竹島館(電蒲郡二五三・四三三番)、同じく常盤館經營の簡易旅館で、竹島に面し規模宏大、宿料二食付四圓五十錢均一、支度料二圓。竹島の風光 常盤館から竹島へは、長橋を架して往來自由であるが、島上には八百富神社を祀る。其社叢は有名で、天然紀念物として保護されて居るが、此島は海岸波浪に洗はれて奇巖露出、風景佳絶の上に、島内草木密生し、珍奇異草甚だ多く、百三十餘種の暖地性植物を包含し、古來斧鉞を知らぬ原始林に屬し、學術上からも甚だ珍重されて居る。辨天島 靜岡縣の西部舞坂町の西にあり、濱名湖今切れの北に浮ぶ砂嘴で、一大島・四小島より成り、冬暖く夏涼しく、北は山紫水明の湖水に、南は今切口沖の蒼海を眺め、辨天橋の漁火、今切の歸帆、沖の瀬の月、濱名長橋の遠望、初夏の飛衝、秋の蟲の聲等々四季行樂の仙郷、春の汐干狩、夏の海水浴、秋の觀月、冬の避寒と鴨獵に適し、水郷の情緒濃かな場所。涼し風吹け辨天橋に可愛いお方が通うて来る。又湖水廻り館山寺行、奥山半僧坊詣の中心地でもある。

【遊覽地】濱名湖巡り(館山寺、磯島、猪の鼻を経てモーターボート)約一時間十分。館山寺行(同)約三時間半
濱松(汽車)―奥山半僧坊(汽車)―氣賀(巡航船にて濱名湖を横斷) 館山寺(巡航船にて)―鷺津(汽車)―辨天島(約一日旅程) 鷺津―新所―入出―瀬戸下尾奈―鶴代―三ヶ月(一時間五分) 【旅館】丸文(電六)開春樓(電三一・一五六)(以上一泊七圓以上九圓) 松月(電二二)若荷屋(電三)(以上五圓以上七圓)

濱松市 東西兩京の中間に位する有力都會、永祿十二年徳川家康茲に築城してから繁榮となつた。現

在戸數三萬、人口十六萬餘。活潑なる商工都市で特殊の産業多く、就中織物・樂器・帽子等を盛大とする。觀光地としても徳川氏發祥地として、三方原古戰場其他遺跡少からず、又東の天龍川、西の濱名湖によつて、風光の地も多いので、市は産業と共に觀光事業にも大いに努力して居る。省線の外驛を中心として、濱松鐵道は北西奥山半僧坊に至り、遠州電氣鐵道は、二俣方面鹿島に至り、又濱松自動車會社、秋葉自動車會社等の自動車は、名勝各方面を聯ねて居る。【旅館】濱松ホテル(電鍛冶町八一・八八)、洋室料二圓五十錢―六圓、食料朝六十錢、晝夕一圓二十錢。常盤ホテル(電常盤町一九五六番)宿料三圓五十錢―五圓、明石家(電鳴江町九一〇)、六圓―十圓。館山寺 濱名湖の北方東岸に一大岩山あり、山腹に精舎ありて、館山寺と名づく。弘法大師行化の時、岩窟内に修法して當寺を創開すと傳ふ。(現在大師自作の石像窟内に安置され、世に穴大師といふ)明治二十一年秋葉三尺坊大權現を勸請した。湖中に突出せる大岩山は全部古成層の赤岩にて、支那の赤壁に比せられ、全山松樹蒼鬱として宛ら一大畫幅の如く、駿遠三の諸山より、富士の靈峰を望み、最も秋月の觀賞に適する。西行法師茲に來り。『館山の巖の松の苔庭都なりせば君も來て見む』と詠じた。大正十年山階宮殿下御來臨、爾後諸名士の遊觀多く、館山の絶景日に普及す。『館山の松吹く風を身にしめて堀江に住める月を見るかな』【旅館】山水館欣龍(電堀江一九)、館山寺ホテル(電二八)、小波館(電二六)、喜樂館(電八)。一泊四圓―六圓位。岩水寺 (靜岡縣濱名郡赤佐村)豊橋驛より(省線二俣線)岩水寺驛下車約二時間、濱松

より(遠州電鐵)四十分、岩水寺がある。聖武天皇の御宇行基の開創、延暦年間坂上田村麻呂將軍東征の際、領田を寄附せる古刹にして、本尊子安地藏菩薩は、田村將軍の一子俊光將軍母公の姿を模倣して安置せるもの、安産子育の靈驗著しく、遠近の女人參拜祈願するもの絶えない。岩水寺遊園地 岩水寺の廣大なる境内、及其の附近の山地一帯を開拓せるもの、山容の秀、溪流の美、又眺望の開闊他に多くその比を見ない。園内櫻樹多く、遠三地方第一の花の名所として、一目千本の壯觀を有し、陽春四月の賑ひは筆紙に盡し難い。夏は青葉涼しく、避暑によく、秋は縣下第一の松茸産地として、茸狩りに又紅葉狩り、冬は山を北に負ふて温暖、四季を通じての勝地である。大洞窟の鐘乳洞は、古くより信州諏訪湖に通ずるとさへ謂はれ、炬火を點じて神秘を探ぐるも興深く、加茂真淵は此洞を訪ひ、『岩水の半の洞のつら、石幾千代く』の世をか經ぬらん』と歌つた、閑雅幽邃の別天地である。濱松市なる濱松ホテル主人大杉豊氏は、大に此地に敬仰を起し、昨春旅館を改造し、團體百人を收容する大衆的設備をなし、岩水寺ホテルと名く。猶ほ弘法大師の發見と傳ふる旅館裏手の温泉を改掘し温泉地としての大發展を企圖しつゝあり。同温泉は胃腸病・冷性等に効驗多いが、特に皮膚病に顯効がある。昔から子授け温泉といはれ、今でも子授地藏が祭られて居る。氏は又旅館前の川流を應用して川魚の水族館を作つて居る。【旅館】岩水寺ホテル(電二俣六九)、一泊四圓―五圓、中食半額。方廣寺(半僧坊)(靜岡縣引佐郡奥山村)濱松鐵道終點奥山驛、又は濱名湖巡航船接續の氣賀口驛より二十

分にして達す。當寺は臨濟宗方廣寺派の大本山で、十三の支坊、三百六十餘の末寺を有する巨刹である。二十八字の堂塔伽藍があり、參籠堂の如き三層で莊嚴を極めて居る。創立は今を距る五百五十餘年の前元中元年で、開山は無文元選禪師即ち後醍醐天皇の皇子にて、井伊谷神靈宗良親王の御弟に在す。十八歳出家、二十二歳入元、高仰山古梅正友禪師の門に入り、刻苦精勵遂に其法統を嗣ぎ、在元八年にして歸朝、京都西山に歸休庵を營みたるが、三河廣澤寺に巡錫の時、御兄宗良親王薨去御遺言によつて葬送の儀を遂げ、再び三河に歸らるゝや、井伊氏の一族奥山六郎次郎朝藤、禪師の徳風を欽仰し、所有山林五十餘町歩を喜捨し、一寺を創して禪師を請す。禪師其地の支那の天臺山に似たるを愛し、深奥山方廣寺と名づく。禪師在山七年、四方の雲納輻輳して、常に五百人に餘り、鬱たる叢林となる。爾來法統連綿寺運益張る。昭和十三年四月十一日無文禪師に對し、今上天皇より圓明大師の大師號宣下あらせらる。方廣寺を、一名奥山半僧坊と云ひ、半僧坊大權現は佛殿の西に祀られて居る半僧坊は開山圓明大師とは別で、禪師支那歸航の際、船首に出現して、船を守れる偉人あり、方廣寺建立の時再現して、此山の護持を誓へるものと云ふ。【旅館】柳屋、奥山館、花屋、一泊二圓五十錢方廣寺宿坊にても三・四百名の團體が投宿出来る。但し時節柄食事持參を歓迎して居る。

木曾川流域地方

木曾峽を見るものは、能くも斯る山斯る水が、美しき自然に保たれたものと驚く。『棧や命をからむ葛かづら』なるもの、山川の生命に於て、眞にその感がある。他國土にあつたら、山や必ず骨、川や必ず洞河原に歸したであらう。日の本なればこそ、こんな樹林森々の山、碧潭掬すべき川が、千歳其美を變へぬのである。御嶽の山の神威、眞に偉大なるものがある。山の美、川の美を觀るもの、其本づく所に鑑みて、深く感謝するでなければ、眞の山川の生命に同化したとは謂へぬであらう。

木曾峽 鹽尻から西南向して、中央線は木曾路に入り、木曾川に沿ひ、福島・中津川等を経て名古屋に至る。木曾峽ほど山水の豪壯雄健なるは少い。北部鳥居峠以北は、北流する奈良井川の流域で、峠以南が専ら木曾川の流域である。西は御嶽、東は駒ヶ嶽、兩山脈の相迫る中を、木曾の巨流が突破して、奇巖を刻み絶壁を削り、急湍には雪を吹き、靜潭には藍を湛へ、而して兩岸の山には鬱々葱々たる樹木茂つて、木曾峽谷をして、四季常に一大美觀區域たらしめる。文武天皇の大寶元年から十二年かゝつて、和銅の三年に岐蘇の山道が開かれたと傳ふるが、而も猶ほ久しい間嶮岨の山道であつたものが、明治四十四年中央西線が開通して、此山峽にも文明的交通機關は、新運命を齎したのである。鹽尻から洗馬・日出鹽・贄川の諸驛を経て木曾平澤となる。有名な漆器の製造場、年産三十餘萬圓

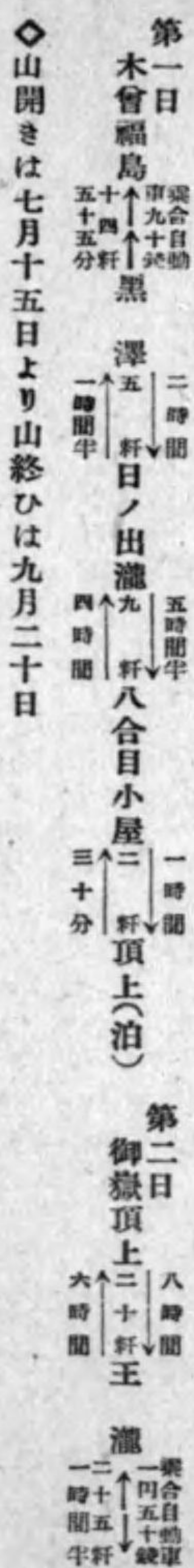
に達する。藪原スキー場 藪原驛の北二軒鳥居峠がある。海拔一三〇〇米、犀川と木曾川の分水嶺で、頂上の眺望は木曾街道随一である。嶺の奥峰山頂から、麓大平の平原にかけて五軒の間に藪原スキー場がある。積雪の期間長く、稀有の好場所である。木曾公遺蹟 次驛宮の越は、木曾義仲の成長地として、公に關する種々の遺跡がある。山吹城址、旗舉八幡宮・南宮神社・巴ヶ淵・木曾宣公舊里碑等で、徳音寺には義仲の木像あり、毎年二月三日將軍忌として祭典を行ふ。寺側に義仲・巴・今井兼平等の墓がある。風景も秀で、紅葉時が殊に好い。福島町 木曾峽の中央に位し、街は木曾川の清流に跨る。海拔八〇〇米。西に御嶽登山道、西北に飛驒方面への道路を岐ち、重要都會。代々木曾氏の居城、徳川氏に及んで、木曾氏の遺臣山村氏代官として、二百五十年此地に館し、中仙道十一驛亭の要衝として、今日を基礎づけた。現在戸數二千、人口一萬餘。帝室林野局木曾支局が存在し、此地を中心に、御料林たる木曾の林野を管轄して居る。縣立木曾山林學校も亦木曾特殊の教育機關である。御嶽・駒ヶ嶽を初め、觀光區域甚だ多く、年々十數萬の旅客を吞吐し、福島觀光協會ありて、大に力を盡して居る。木曾峽谷は帝室御料林多く、福島は自然其總元締ともいふべき地位に在るので責任を自覺、種々努力して居る。明治天皇は木曾の山林多く耕地少く、住民の生計容易ならぬに御憐愍、屢々殖産興業の爲め御下賜金等あり、福島町木曾館前に恩賜記念碑を立て、皇恩感謝を表して居る。【旅館】 岩屋本店(本町電話一五)、同支店(驛より一丁八澤電話七二)。水無神社(縣社)駒ヶ嶽

登山伊谷に鎮座、創立甚だ古く、奇祭『お興まくり』が、福島の一名物となつて居る。福島産物曲物類を主とし年額十數萬圓に上る。御嶽氷豆腐も上品で、年額七八百萬圓に及ぶ。又割正目及春慶塗漆器の名産あつて、年産十五萬圓に至る。其他白樺細工・富貴漬・山葵等ある。

御嶽山 御嶽は古い火山で、今は頂上南側の地獄谷噴氣孔と、山腹山麓等に存する二・三温泉とに餘命を止めて居る。山は全山殆ど御料地で、山腹の喬木帯は、木曾特有の美林をなす。下方は檜・樺・五葉松・樅等の密林であるが、登るに従つて樺・米樺・白檜・唐檜等の針葉樹に、岳樺が混生する。此畫なほ暗い森林は、盛夏には登山者の日傘となり、嚴冬には登山者を風雪の危難から免れしめる。又山中大小數十の瀑布があつて、黒澤口の百間瀧、王瀧口の清瀧等は、其の尤もなるもの。千古斧鉞を見ぬ天然林中に溪流・絶壁・瀑布を描く奇觀妙景は口に説き難い。其獨立峰なるが故に眺望の雄は言ふまでもない。役の小角を開祖とする山岳佛教修驗道は、全國の名山を殆ど之れが道場とした。御嶽も亦其有數な一つである。然も名山富士を初め、多くの山が近年殆ど信徒を絶つに至つた今日、御嶽の信仰は益々盛んで、全國に信徒實に百萬を有し、毎年賽するもの五六萬を下らぬ。今は純然たる神道である。御嶽神社 は黒澤・王瀧兩登山口にあつて、黒澤口本社は劍ヶ峰頂上にあり、黒澤には里宮・若宮の兩社がある。祭神は大己貴の命・少彦名の命の二神、社格は縣社、例祭は七月十八・九の兩日。王瀧口本社は王瀧頂上、里宮は王瀧村上島(王瀧登山口)にあつて國常立の命・少彦名の

命の二神を祀る。社格同じく縣社、例祭は七月二十七・八の兩日。登山期中は各本社に社務所が開設さる。【登山口と交通】御嶽登山は次の三ヶ所あるが、何れも中央線木曾福島驛から行く。黒澤口及王瀧口共に、夏期數百人を收容し得る設備完全の旅館あり、物品販賣店案内人組合山中旅舎並に賣店等萬般設備整つてゐる。

【黒澤口】福島より一二軒、頂上まで一六軒、御岳自動車商會の乗合自動車あり、登山道良好、案内者不要。【王瀧口】經黒澤二〇軒、頂上まで四軒、御岳自動車商會の乗合自動車あり、登山道良好案内者不要。【旅館】黒澤口（三岳村）千秋館武居（室數一四室、最大收容三五〇人）田中（一七室、四〇〇人）其他（宿料三圓位）王瀧口（王瀧村）瀧旅館（三一室、五〇〇人）御岳ホテル（二八室、四〇〇人）其他。宿料三圓位。御嶽登山行程



山開きは七月十五日より山終ひは九月二十日

【鞍馬峽】王瀧登山口に至る途中、福島町より十八軒程の處、鞍馬峽がある。溪流屈曲數町に亘り、斷崖屹立幾百尺なる岸上に、深緑の天然林を有し、其狀世界の絶景と稱せらる。埃太利のエドモンドグラウに似て、之に勝ると本多林學博士は激稱した。【水ヶ瀬】鞍馬に劣らぬ絶景、王瀧から更に上流四軒にある。御嶽高原スキー 夏の御嶽山は富士に次ぐ多數の登山者を有するが、雪の御嶽は餘り多數には知られなかつた所、最近福島其の他地元方面の努力にて、大分スキーヤーの愛好を集むるに至つた。夏時登山に比して雪中の山は特に變化に富み、四五合目八海山一帶の廣漠たるゲレンデスキー、七八合目の林間スキー、頂上附近のアイゼン・ピッケル使用登行、更に又繼子から繼母岳へかけて、山スキーのアマチュアから、専門以上の専門家まで待つて居る。【御嶽乗鞍縦走】最も痛快なるは、御嶽から北部乗鞍へスキー縦走と、並に高山線久々野驛に至るスキーツアーで、乗鞍への縦走は豪快味比類少ないと喜ばれて居る。【木曾福島スキー場】福島驛より五軒、乗合自動車駒の湯迄あり、徒歩約〇・五軒一にキビヲ原スキー場とも云つて、福島驛から約五軒で自動車の便がある。木曾駒ヶ岳から續く約八軒餘の大斜面で、廣袤約五十町歩、スロープは緩急自在障害物なく、絶好のスキー場で、宿泊には山の家駒の湯がある。上松町 戸數一千六百、人口八千。前年大火に遭つたが今は復興しつつある。上松から御嶽方面及上松小川方面御料林への森林鐵道が發して、材木の運搬要路に當り、一面又木曾峽中の最も知名の勝區を有する。寢覺と棧 寢覺の床（木曾八景の一）は木曾風景の王座、清澄な木曾川が、兩岸の奇石怪巖にせばめられて、碧潭となり、別天地を形作つて居る。上松驛より國道を南へ約一軒半自動車の便がある。寢覺山臨川寺なる古刹があり、俯瞰すると、寢覺の床（表寢覺）は一眸の中に収まる。棧（かけはし）（木曾八景の一）は上松驛を國道に出て、左折して木曾川に沿うて行くこと三軒、自動車を馳すれば、約十分間にして、道は木曾川の碧潭に臨んで屹立せる絶壁を穿つて通じ、茲が蕉翁の『かけはしや命をからむ蔦から』の棧である。美留野

驛 中央線木曾谷(長野縣内)最南端の驛で、此驛から伊那飯田町へ乗合が通ずる。【賤母の紅葉】三留野を發して木曾川第二鐵橋から左方一帶の森林は、賤母御料林で、木曾街道唯一の原始林、古への木曾路の風景を代表するもの、常緑木中に紅黄を點ぜる紅葉の美謂ふばかりなく、晚秋坂下驛に下車してこゝを一巡するも妙。 中津町 岐阜縣美濃國の東方に位し、中仙道木曾峽口の關門にして、飛驒地方交通の咽喉を扼し、重要地位を占む。戸數三千七百、人口二萬餘。商工業繁盛、觀光都會としても有力。 惠那登山 惠那山は標高二一九〇米、美濃第一の高山で、頂上に【縣社惠那神社】が祭られ、諾冊の二神を齋く、中津川驛より坦路二里、山麓に達し、更に三里の峻坂を攀ち山頂に達す。【小鳥狩り】 中津川の小鳥狩は有名で、毎年十月半頃から十一月下旬にかけて盛に行はれる。場所は驛より數町の處に澤山ある。【旅館】 近又(電一七)、梅信亭(電九・一六二)、長多喜(旅館料理、電三〇五) 中村屋(旅館、電五一)、十一屋(旅館、電一一)、勝宗(旅館、電八)、 惠那峽 中津川驛なる中津の町と、美濃坂本の驛一つを過ぎて、大井驛なる大井町との間に、惠那峽なる一大勝地がある。これは三里に亘る木曾の流れが、兩岸に奇巖怪石の天工を極め、中に神秘に富む深淵を湛へ、古來絶景を以て稱せられ居るもの。 金龍温泉 大井町は美濃の古驛で、承久の合戦に官軍大炊の渡に東軍を防いで、遂に敗れたといふ大炊は茲といふ。此驛から前記惠那峽に通ずる北惠那鐵道の中間驛に、金龍温泉驛があり、其處にラヂウム礦泉金龍温泉がある。旅館は金龍館と名づけ、金比羅山麓を圍んで、五萬坪の一

大温泉郷を開拓し、設備凡て完全。春は櫻花最も多く、晩春は新緑と山躑躅、夏時には園を繞つて流るゝ阿木川に、河鹿鳴き、夜は杜鵑啼き、又鷹が啼く。秋の紅葉、觀月はいふまでもなく、其の頃は東濃名物の鳥焼も行はれ、冬は又峽上のスケートあり、温泉は四時晝等に伴つて、最上の健康を提供する。惠那峽觀光船は茲を根據とする。

金龍館 大井驛北十丁、大井驛より自動車五十分錢、(構造)和風二階建二棟、平家建五棟、室數二十八室、(大廣間共)收容人員百二十名宿泊料五圓一六圓、晝食料二圓均一、船賃屋型船十二人乗一人増八十錢十六人迄往復十圓、貨切モーター十人乗十二圓、十六名迄一人増八十錢、乗合十五名以上の場合出航一名八十錢。

日本ライン 中央線を高山線への聯絡は、多治見驛から太多線に乗換へ、高山線美濃太田に合するが其處に有名な日本ラインがある。之は木曾川の勝景で美濃太田驛から犬山町まで下るもよいが、名古屋から名古屋電鐵にて、犬山町に達し、犬山町から太田まで船で上下すれば、其景觀を充分味はふに足る。惠那峽の奇勝を作つた木曾川は、更に下つて古井・太田驛附近から、下流約三里犬山に至つて一大峽谷美を展開する。これを日本ラインと呼ぶ。志賀矧川氏茲に舟遊を試み、歐洲のライン河に勝る萬々なりと賞讃せしより、日本ラインの名は天下に喧傳せらるゝに至つた。 犬山町 犬山城は尾張平野の最北端、木曾巨流の南岸丘上に存し、戰國時代美濃方面への抑へであつた。町は其れを中心

に發達し、今日では工業が盛大となり、戸數三千、人口一萬七千、兼て觀光都市として榮えて居る。

城は桃山時代の好典型として、國寶に指定された。交通として名鐵が名古屋市を四十分で聯絡して居る。旅館は料理宿泊最も備つて居る。

料理旅館 迎帆樓（電一〇四・三六一）犬山西谷港（宿料、半宿五圓・四圓、朝一圓、中食料二圓五十錢、晚四・五圓）彩雲閣（電四〇七・二二四）（宿料半宿五圓・四圓、食料朝一圓、晝二圓半、晚四圓・五圓）
田中屋（電二四一）日本ライン犬山橋畔（宿料朝夕二食付四圓・五圓、中食料二圓）。
船賃、今渡より犬山橋を下り貨切七圓二十錢乗客一名八十五錢、ライン遊園地より犬山橋迄下り貨切五圓五十錢乗客一名七十錢、坂祝より犬山橋まで下り貨切六圓乗客一名七十錢、犬山橋上下貨切六圓六十錢乗客七十錢（貨切は隨時出發）乗合は今渡午前十一時、午後二時、ライン遊園地午前十一時二十分、午後二時二十分、坂祝午前十時五十分、午後一時五十分、犬山橋上下午前十一時、午後一時（午後二時日曜日祝祭日）嶺新名古屋驛にて日本ライン連絡券を發賣す。

縣社針綱神社 犬山町大字犬山に鎮座の同神社は、尾治針名根オノハシナネ連命、比賣命を主神とし、伊邪那岐命外十柱を合祀す。創立極めて古く延喜式神名帳に見ゆ。犬山城主織田信康天文六年城東に遷座、爾來武將等の尊信篤く、明治十五年現在の地に更に遷座し、同年縣社に列す。尾北唯一の縣社にして犬山の總鎮守たるのみならず、遠近の崇拜厚く、關東西よりの參詣者甚だ多い。例祭の山車は最も有名で、犬山の地櫻花に埋もるゝ四月七八兩日、最も嚴肅に行はるゝが、古き歴史を持つ十三輛の山車が古雅壯麗の裝飾して、優麗典雅の樂の音と共に櫻花を押し分け進む様、又其山車上に飾らるゝ人形からくりの、活ける人物も及ばぬ巧妙の姿態等、實に稀有の見物である。夜は又山車が悉く満燈して練り

行く。此例祭は遠近に轟き、參拜者市中に充つ。其他初火祭厄除祭長壽祭等の特殊祭亦賑ふ。又軍人守護の神徳高く、祈禱者甚だ多い。

岐阜縣富山縣地方

岐阜市 岐阜は好いとこ、金華山の麓と歌はれた通り金華山を負ひ、長良川に臨み、優勝の地位にある。織田信長金華山城を築いて岐阜と名づけたるに初まる。現在戸數二萬八千、人口十四萬、岐阜縣を管し、中部日本屈指の都會である。【金華山】山頂模擬天守閣を築く、眺望廣潤。【岐阜公園】甚だ廣大、正面板垣伯遭難地に同伯銅像及記念碑がある。園の内苑に名和昆虫研究所あり、三萬の標本を有し、日本文化の一寶庫とせらる。伊奈波神社（國幣小社）五十瓊入彦命を主神とし、四月五日の例祭は、岐阜祭として有名。長良川の鵜飼 岐阜名物長良川の鵜飼は、一千餘年前延喜年間追溯到歴史を有し、明治二十三年宮内省より、同河畔三所の御獵場を定められ、宮中供御に奉らる。鵜飼は市の直營となつて居る。毎年五月十五日より十月十五日迄毎夜行はるゝも、時刻は一定せず前日中に發表す。最盛期は七・八の二ヶ月とす。遊覽船は長良橋畔から出るが、使用希望者は同橋詰の市營遊覽船事務所又は市役所産業課、又は岐阜驛構内觀光案内所へ申込む事、遊覽船は五人乗以上三十人乗まで六十餘艘あり、使用料は五人乗（船夫付）四圓から特別三十人三十圓まで種々で乗合船は一

人八十五錢である。

【旅館】濃陽館及同支店(電一二〇・支店一一四三)、信濃屋(電三二八)、玉井屋(電六五・八一四)、たなばし旅館(電二五二九)、長良河畔長良川ホテル純洋式(電三六五・四一一〇)、港館(電六八五・三〇四〇)、鐘秀館(電七七四・二三七七)長良館(電一一八五・一三一〇)其他

下呂温泉 高山市へ高山本線を四八軒の所に、下呂温泉がある。下呂町は高山市と中津川とを結ぶ縣道の略ぼ中間にあり、飛驒川を挟んで、東に阿寺西に川上の山脈を負ひ、戸數一千、人口五千餘、温泉町である。一千年の昔から温泉が湧いて、瘡病等に非常の効驗があり、草津・有馬と共に日本三名湯の一に謳はれたが、文政以來の大洪水で泉脈を埋め、久しく荒廢の所、大正十一・二年頃より復興十四年百度内外の湯口を掘り當て、數十年休滅の同温泉の復活を見るに至つた。斯くて次第に大規模な旅館が出来、今日にては温泉旅館三十餘軒、料理屋・待合・其他の諸商賣も繁榮し立派な泉都と化するに至つた。海拔一千三百尺の高原地帯に飛驒川の清流を俯瞰して、御嶽・乗鞍・槍ヶ嶽の秀峰に圍繞され、風光明媚、視野雄大、空氣清朗、人情惇朴、太古さながらの神仙境。夏暑さを知らず、冬溫暖、四季それの眺めありて、都塵生活者の夢想だも及ばぬ幽趣がある。泉質は硫黃鐵鹽分を含む有する鹽類泉で、溫度華氏百二十度乃至百七十度、無色透明硫化水素臭氣を有し、一浴爽快を覺ゆるを特色とし、胃腸病・リウマチス・痔疾・婦人病・皮膚病其他に効能が多い。湯の島館は一小山全部

を館域の構造で有名であり、水明館は規模宏大、設備完全とを以て知られ、就中其新築大浴場は人をして神秘の入浴氣分を感じしめるものがある。望月館も亦優秀の設備が整つて居る。

【旅館】湯の島館(電二二)、水明館(電四四・四五・四五、別館一三〇)、宿料四圓五十錢、五圓五十錢、支度料二圓。望川館中屋(電四八、宿料四圓五十錢、晝食料一圓八十錢。小池屋旅館(電二九)、日出樓料理店(電一二七)伊佐地、上田屋、櫻屋、西屋、山田館、菊水、奥田屋、山形屋、上宮野屋、松屋、湯本ホテル、上屋、下呂ホテル、飄釣、紙屋、清芳閣、吉丸屋、米屋、中屋、淺野屋、中野屋、榮屋。【交通】下呂驛前から乗合、貸切五六分にして温泉街に到着。又乗合は付知町から、高山市から何れも聯絡する。

高山市 岐阜縣の北部、飛驒の中心都市で、海拔五七三米(千九百尺)の高地にある。市の中央を神通川の上流宮川が貫流し、面積二方里七、戸數七千、人口三萬三千、氣候涼しく自然の勝地である。昭和九年高山線開通、十一年十一月市制を施す。【高山城址】金森氏六代百餘年間、飛驒藩治の中心であつた古城址で、今高山公園となつて居る。市街を一望し、全山の松柏古昔を偲ばしめ、又櫻樹多く六萬五千六百坪の大公園である。【縣社日枝神社】市の東南、宮川を溯る公園の麓にあり、日枝大山咋神を祀る。毎年四月十五日山王祭と稱し、神輿渡御屋臺練行の盛大な祭禮が行はれ、飛驒の名物の一つである。【縣社八幡神社】毎年九月十四・十五日に行はれる祭禮は、春の山王祭と同様有名。

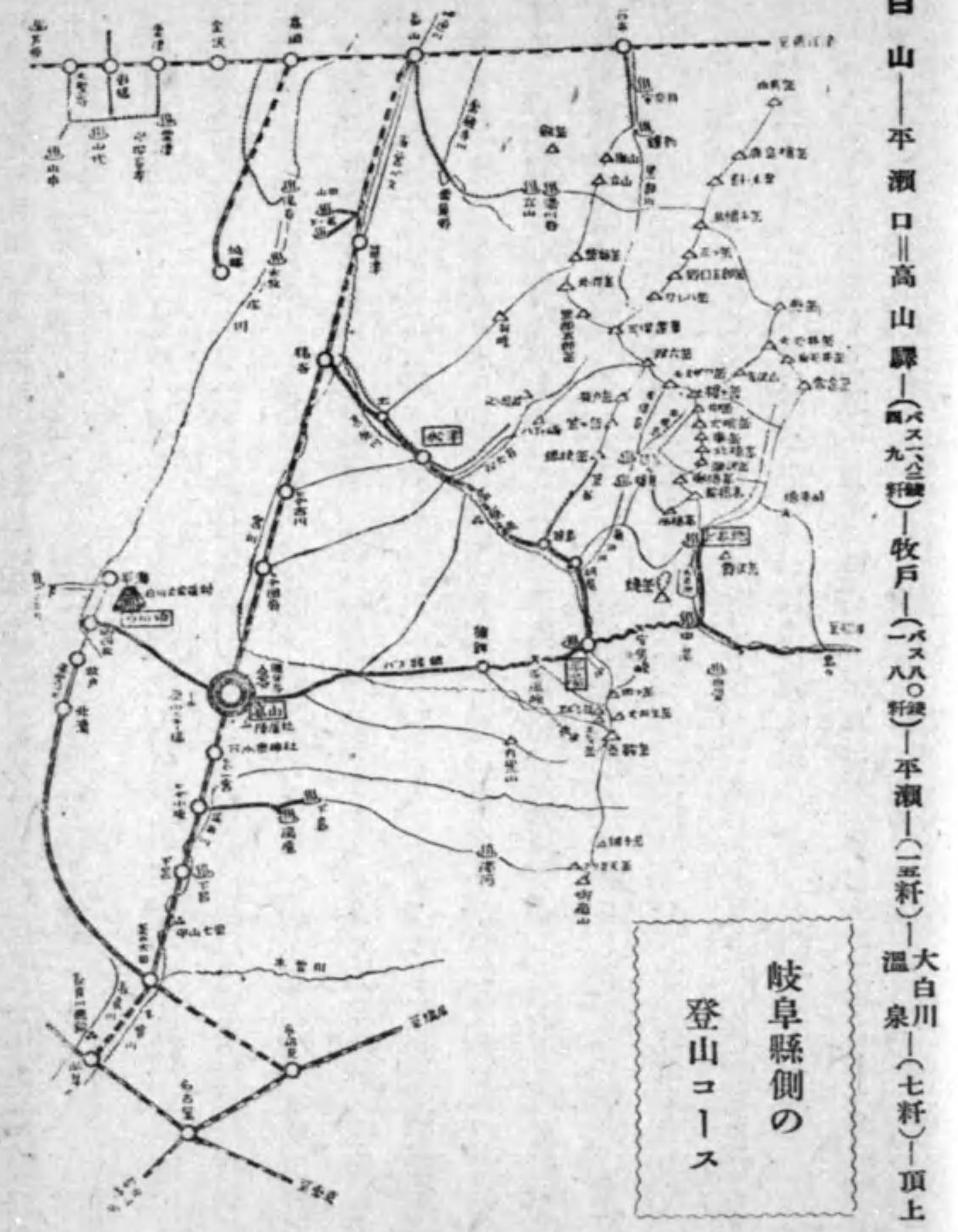
【縣社飛驒總社】式内、式外十八神及び斐陀國造の祖大八椅命を祀り「總社ヶ森」と呼び、毎年五月

五日盛大な祭禮を行ふ。【旅館】富春館長瀬旅館(電長六八・四一三)水無神社(國幣小社)飛驒の分水嶺宮峠の麓に鎮座、此國の一ノ宮で、祭神は御歳神・外諸神特殊祭事は九月二十五日『宮祭り』として神代踊・鬨鷄樂・獅子舞等古風のお祭りが傳はつて居る。高山市に近き一の宮驛下車。平湯温泉(岐阜縣吉城郡上寶村)上寶村は信濃の安曇村・平村等と同じき山岳村で、四ツ岳・硫黄・西穂高・奥穂高・槍・双六・蓮華・黒部五郎・上ノ岳・笠岳など、皆此村に地籍を持つ。高山へは平湯峠を経て八里乗合を通じ、東は安房峠頂上まで延長して信濃側の自動車と聯絡し、平湯は高山松本を聯ぬる交通線上に立つ。東に活火山硫黄岳を負ひ、西に平湯峠を望み、海拔一千二百三十三米、人間常住地として全國にも稀有の高地といふ。夏時爽涼盛暑も攝氏八十度を越えず、秋は紅葉殊に麗はしい。泉質は無色透明、無味無臭の炭酸泉に屬し、攝氏七十度内外、筋關節リウマチス・婦人病・腦病・梅毒・創傷等に特效を稱せらる。大きな共同浴場の外、主なる旅館には内湯の設備がある。【大瀧】直下二百八十尺の壯觀。【高原峽】毛受母川下流十數里の峽谷、紅葉時が殊に佳い。【乗鞍登山口】平湯から乗鞍登山口がある。【旅館】平湯館別館第一、第二、第三(電平湯五)、村山旅館(電同九)、船津屋旅館(電同三)。中部山岳と岐阜縣側 中部山岳國立公園は、其範圍の廣大日本無比であるが、信濃側、富山側、岐阜縣側それ〴〵の特色を持ち、各縣共に開發に努力して居る。岐阜縣亦大いに力を盡し、國民強健に資せんとして居る。岐阜縣側登山は高山を中心とするが、其眺望からしても、高山は非常

に雄偉である。秋の頃高山驛屋上の展觀臺から見渡す光景など、繪も及ばぬものがある。東に當つて高山城址の丘陵が立つ。常緑木の林の間から、紅葉が火よりも赤く燃え出で、其上に大きな白銀の山の、皎々として輝く所、目も覺むるばかりである。それを手初めに銀嶺は蜿蜒として東の空を走り、北天通かに續く。第一は乗鞍岳で、松本の方からは、遠く白衣の大宮人を見るやうな優しさであるが茲からは實に堂々たる大嶺で、劍・魔王・桔梗・大丹生・四岳等の諸頂を數へる。更に北して煙を吐くは間はすして燒岳たるを知る。其北に高嶽の群れ立つは、前・西・奥穂高の諸峰。上高地からは見えぬ北穂高も、茲からはクツキリ其全姿を見る。高い尾根續き南岳・中岳・大喰岳。大小の槍は尖頭を蒼天に閃かして居る。續いて北に大きく擴がる笠ヶ岳、其北に双六岳・三俣蓮華岳・黒部五郎岳・上ノ岳・藥師岳・遙かに北に小さく立山が見える。松本の方からは、日本アルプスの前衛であるが、茲からは直ちに本陣の御歴々に、見參するのであるから、其の豪壯は類ふべくもない。顧みて西は又翠嶺の上に、加賀の白山の白頭を見、南は御嶽山を見る。一天晴れ渡つて纖翳もなく、飽迄澄んだ紺青の天空に、幾銀嶺の輝く所、山を地上のものとは思へぬ。實際茲に見て山は直ちに神靈である。多くの神々が、互に天空に座を占めて、何事かを神謀りに謀る所、高天が原を想ふ。登山根據としての高山市は、恰も東側の松本市の地位に當る。御嶽登山が南方飛驒小坂驛、又は久々野驛よりする外(乗鞍へも久々野驛から二路がある)乗鞍・燒・穂高・槍・双六・笠藥師、又西方白山方面にしても皆一應高山に至り、それより平湯温泉其他の地方に向ふを順路とする。高山の古典的都市は、登山者

に一種幽雅な気分を與へて、著しく登山を神祕化せしむる特色がある。今各登山口及登山路の大概を示せば左の如くである。

- 飛驒小坂驛——(六軒)——落合——(一八軒)——
- 秋神口——久々野驛——(三六・三軒)——秋神(宮前)——(二三軒)——岳ノ湯——七軒——頂上
- 御岳——上ヶ洞口——久々野驛——(一四軒)——淺井——(一八軒)——上ヶ洞——(二四軒)——頂上
- 旗鉾口——高山驛——(二九・九軒)——旗鉾——(一八軒)——頂上
- 乗鞍岳——平湯峠道——高山驛——(三三・二軒)——平湯峠——(二六軒)——頂上
- 平湯口——高山驛——(三三・六軒)——平湯温泉——(二七軒)——頂上
- 燒岳——平湯口——(細池道)——平湯——(九軒)——頂上
- 穂高岳——蒲田口——(白出谷道)——平湯——(八・七軒)——栃尾——(六軒)——槍見——(二軒)——穂高——(八軒)——槍ヶ岳
- 槍ヶ岳——蒲田口——(槍平道)——槍見温泉——(二三軒)——槍平小屋——(八軒)——槍ヶ岳肩ノ小屋——(二〇軒)——双六池小屋
- 双六岳——蒲田口——(左俣谷)——槍見温泉——(二〇軒)——猪ノ谷驛——(二〇・五軒)——船津——(八・五軒)——中山——(三六軒)——双六池——(三軒)——笠ヶ岳
- 笠ヶ岳——(二軒)——飛驒國府驛——(二・四軒)——本郷——(二・一軒)——郎岳——(三軒)——太郎兵衛平
- 笠ヶ岳——クリヤ谷道——平湯——(八・七軒)——猪ノ谷驛——(二〇・三軒)——船津——(八・五軒)——槍見——(六軒)——槍見温泉——(三軒)——笠ヶ岳——(二軒)——双六池
- 藥師岳——土口——猪ノ谷驛——(一・八〇軒)——土——(三軒)——有峰——(二軒)——太郎小屋——(四軒)——頂上



富山縣の國土愛護と其優秀なる方面

北陸道の中央に位し、越中一圓を管する富山縣は、面積四千二百五十七方軒、東西南の三方は重疊たる山脈を以て圍まれ、北方一面日本海に臨み、中に若干の平野を貯へ、富山縣は北向きの夏座敷といふ格好である。此間約十六萬戸、八十五萬近き人口を抱擁し、二市八郡三十一ヶ町二百二ヶ村を形作つて居る。工業最も盛んにして産額一億五千萬圓、農業之に次ぎ四千六百萬圓、水産は五百八十萬圓、鑛産・林産・畜産等は各四五百萬圓の程度に在る。工業の最も主なるは製藥業の三千萬圓で、綿・絲紡績之に次ぎ、其他綿・絹・麻等の諸織及銅器類・菓工品・製造肥料等である。對岸滿洲國の發達と共に、本縣は之に對する供給地として一層の努力を拂ひ、築港完成の伏木港を利用して、今や専ら雄飛の計畫中である。

日本の夏座敷たる富山縣の自然的設備を見るに其三面の隙障子も、充分に御念入である。先づ東方の隙を見よ。之に描かれたる其山水畫の雄渾豪宕にして、神秘的なるを。所謂中部山岳國立公園なる中央山脈は、越中境に入つて二派に分れ、一方は白馬山脈として、信濃の境より越後の境に亘り、白馬の二千九百米、槍の同じく二千九百米、鷲羽の二千八百米、針の木の二千八百米等、銀嶺悉く天を摩し、之に並行する立山々脈は、主峰立山の三千米、別山の二千八百米、淨土の二千八百米、藥師の

二千九百米等、靈嶽皆雲外のものである。其間の黒部溪谷の如き、中央山脈の至奥部として、自然の畫手が如何に妙筆を凝らしたるか。南方には更に飛驒山脈の餘波たる、白木峰・金剛堂山等を崛起せしめ、飛驒より下る神通峽は、又人間畫家を後に墮若せしむる。西方には白山々脈から續く加賀國境の寶達山・石動山、曾ては源平大合戦の背景となつて、鬼神を夜哭せしめた俱利伽羅峠は此山脈中に在る。

是等高山峻嶺の間から湧き來る諸川流は、北陸七大河川に數へらるゝ黒部・常願寺・神通・床の四大川を初め、小矢部・早月・片貝・上市・白岩等の諸川、全平野を縦横に灌漑して、茲に稜々の嘉穀を産せしめ、八萬町歩の田、百六七十萬石の米は、價格三千萬圓に上り、自然の畫手は風流と同時に經濟にも巧みである。

海に至つては蒼茫たる日本海の波濤、人をして無限の壯志を湧かさしむる外に、魚介を産して漕運を助け、又魚津の蟹氣樓や、光り烏賊やの奇觀をも作つて、時々人心を慰藉するを忘れぬ。而も風光と共に經濟を發達せしむるもの、豈獨り自然の大畫手のみならんや。賢き富山縣人は、亦之に倣つて、經濟裡且つ風光の勝を拓きつゝある。此縣の山川急流に富むや、夙に水力電氣が發達し、民間としても二十有餘の發電事業家は、競つて電氣事業を起したが、富山縣自身亦縣營を以て大いに斯業を起し、豊富低廉なる工業的動力を供給するの一方、其急流深谷等を對象とする緣故によつて、大に是

等方面の交通を便し、健勝區域の開拓に努めた。今や凡ては統合されたが、行き方は變らぬであらう。初め縣は各川の水害防止の爲め、電氣事業を計畫し、之を以て一石二鳥の妙計としたが、健勝區域の開拓に至つては、正に一石三鳥に達したものである。

且つ此縣に特に此健勝事業の必要なるは、此縣が日本全土の夏座敷たる代りには、他期に於て不利の缺點がある。それは氣候は然く嚴寒に苦しむ程にはあらざるも、此邊の海面は潮流の關係にて、常に雲霧を生じ、天空多く曇つて、快晴の時少く、而して其地北方に面して、太陽照射の逆なるや、一年の中陰鬱の日多くして、これが地方人の健康に有利ならぬものがあり、富山地方に於て、賣藥事業の古來大いに發達せるも、其原因の一つは、此地方人が病苦を快癒せしめんと、熱意の他地方人に比して一層切なるものがあつたに本づくると謂はれて居る。然るに此地方の名山清川多くして、登陟に興味の多き、温泉等の湧出滾々として、到る處治病増健の劑に富める、是等を開發整備して、縣人等をして充分に之を利用せしめば、其健強増進に於て、之は積極的の一大新製藥に當るものである。今日は何れの地方に於ても、名山大川の觀賞が、最早者修養澤の種類とは考へられずして、人間健勝に必要な事業とせらるゝに至つたが、富山縣の如きに於て、其れは一層緊要不可缺の意味を持つ。富山の賣藥が自縣人より、遂に全國人の救済に及びたる如く、富山縣の風光的新藥劑も、自縣民の健強より、進んでは恩惠を多くの他地方人に及ぼすに至つて、其理想は成るであらう。富山縣人の國土愛護

は斯くして眞劍なるものがある。

富山市 越中平野の略ほ中央部に位し、神通川その西部を環り、北流して東岩瀬港に入る。神代からの越の名見え、天武天皇の頃越前・越中・越後の三つに分たれ、天平四年越中の守が初めて任命された。當時の國府は今の伏木町にあつた。同十八年大伴家持卿國司として來任、六年の任充ちて中央に歸つた。天正七年織田信長佐々成政を越中に封じ、富山城に居らしめた。信長死して秀吉此地方を加賀の前田利家に管せしめ、後越中一圓は前田氏の所領となつた。寛永十七年前田利次婦負新川の二郡十萬石に分封されて、富山城を經營し、爾來代々襲いて維新に至つた。十六年富山縣を置き、縣廳茲に設置となり、二十二年市制施行。戶數二萬、人口十萬、富山高等學校・富山藥學專門學校あり、其他銀行・會社の有力なるもの多く、商工業繁盛、對岸滿洲國の獨立と共に、裏日本に於ける樞要なる地歩を占めつゝあるが、更に紀元二千六百年の記念として、隣接東岩瀬初め二町八ヶ村を編入、大富山市を建設した。右の中東岩瀬港は前年より二百八十萬圓を以て第三期修築工事を進行、之によつて同港は一層其機能を發揮すると共に、背面三百餘萬坪の理想的工業地帯は、産業都市として目覺しき發展を示し、斯くして富山市は海陸運輸の利便を備へ、近代的工業都市として、生産の擴充貿易の振興、北陸大都の重大使命達成を期して居る。交通 北陸本線は市の北部を横斷して東西に走り、南に分岐した高山本線は高山市を経て、表裏日本を聯絡し、又伏木雄基間直通航路開けて、東岩瀬港の

修築、富岩運河と相俟つて、海陸聯絡上一轉機を劃し、縣内の交通網は殆ど残る限なく行渡つて居る
廣貫堂の發展 奉天町紅梅町に營業所及び工場を有して居る滿蒙支賣藥富山縣廣貫堂は、三百年の古
き傳統を有する大日本富山市株式會社廣貫堂内に本社を置き、その販路は日本帝國内は勿論、北・中
南・支メキシコ・泰國・カナダ・布哇・昭南島・南洋諸島等海外へ目ざましい飛躍ぶりを示すに至り
更に昭和十一年舉縣一致事業として、大陸進出の計決し、富山縣廣貫堂の設立となり、滿蒙躍進に拍
車をかけ、日滿兩國人の家庭に店頭配置されると同時に、軍部・治安部・各省・縣公署・滿鐵・農
事合作その他各種團體よりの大量取引にも應じ、業績好調の一途を辿り、大衆衛生業による兩國親善
譜が奏でられて居る。尙滿洲國皇帝即位に際し、奉祝記念として滿洲國に藥劑四十萬個を寄贈したに
對し、鄭國務總理より記念の額面揮毫を受け、昭和九年十一月十二日には、實業部大臣張燕氏、同十三
年十一月十日には、駐日滿洲國大使阮振鐸氏を始め、滿洲國官吏、協和會幹部ら多數、屢々同社・工
場を視察し、充實せる工程ぶりに賛歎の聲を放ちつゝある。對米英戰爭の勃發に至つては、南方諸方
面に對し、富山製藥は一層の信用を以て需要激増を來して居る。

【旅館】 富山ホテル（電三一三二） 櫻木町 富山館（電四一六六） 總曲輪 日の丸ホテル（電二五七三） 富山驛
前 千代館（電二〇九八） 富山驛前 北越館（電三一三三） 富山驛前

光榮の立山『立山の空にそひゆるを、しさにならへとそ思ふ御代のすかたも』と立山頂上に刻しある

御歌は 今上天皇東宮に在した大正十四年新年御詠進の御歌である。御代の姿もならへとぞとの仰せ
山に取つて如何に光榮の極みであるか。立山や昔は大伴卿の雄々しの血管に共鳴して、不朽の吟詠を
日本精神の上に殘し、今は長くも一天萬乗の我大君の觀聖神武のみ心に或ものを貢獻しまつる。まこ
とに偉大なる神靈の山よ。かゝる靈山を朝夕の鑑みに持つ富山地方の人々は深く、日本精神の本づく
所に感銘して、報効を期せねばならぬであらう。 雄山神社（國幣小社）立山の主峰雄山頂上に鎮座
の雄山神社は、延喜式内古社にして、伊佐那岐の命及び天の手力雄の命を祭る。大寛元年景行天皇の
後胤稻背入彦の命の苗裔佐伯有若越中の守に任ぜられて下向、父子立山に靈感の事あつて、朝廷に奏
上、神社を立山々頂に建設せしを開基とす。後本地垂迹説の盛行と共に、佛教徒は雄山神社に對して
も、立山大菩薩立山大權現等を配し、其靈驗を宣布するに至つた。明治維新に至つて神佛分離、神社
は最初の雄山神社に歸つて縣社に列し、一昨年國幣社に昇格、同時に社殿等にも大改修が行はれ、雄
山神社は山體の崇嚴と共に光輝更に新たなるものがある。 立山と其諸勝 國立公園日本アルプスの
一雄峰立山は、越中の東南に續く立山山脈の主峰で佐良峠から餓鬼岳・淨土山（二八七二米）、雄山・
大汝（三〇一四米）、眞砂・別山（二八八五米）から成り、其の中心を雄山とする。古くから富士白山と
併せて日本三靈山に數へられた信仰の山で、種々の傳説を残してゐる。劍岳と共に花崗岩の山肌は萬
年雪を鏤め、其の英姿は日本アルプス中屈指の偉觀に屬するものである。 登山路 富山驛から富南

山驛に往き、鐵道によつて終點千垣驛に下車、徒歩芦崎寺に雄山神社の前立社壇に参拜し、藤橋に赴く。登山道は此處から三つに岐れる。左は稱名瀧を経て彌陀ヶ原に達する新道、中央はブナ坂を登り彌陀ヶ原に達する立山本道。右は常願寺川に沿うて立山温泉に達する温泉路で、立山本路によると途中稱名瀧を見、彌陀ヶ原を進み、室堂に達する。早朝富山を發して一日行程。彌陀ヶ原 立山の西南室堂附近から彌陀ヶ原高原の一帯約二十軒、火山性高原の大斜面は、本邦唯一の廣大なスキー地である。室堂から立山・雄山の頂上までは約三軒餘、淨土山と雄山の鞍に當る一ノ越から左へ一直線に登る。一ノ越から二ノ越、三ノ越には東宮御歌碑がある。雄山頂上 頂上は磊々たる片麻花崗岩から成り、海拔三千米、東、信濃側は急崖をなして、凡そ五つのカール（雪窪）を有する。頂上鎮座の雄山神社から四顧すれば、東前面近くに黒部の秘谷を隔て、白馬山脈の連嶺を見、東北に向つて遙かの空遠く妙高・戸隠・黒姫・淺間を望み、更に南方黒部峡谷の窮る處、槍・穂高銳峰を示し、東南の雲表に八ヶ岳・白根山連り、遠く富士山其背に白頭を現はし、南薬師・笠ヶ岳より西南白山を望む。西は大日・早乙女岳を経て、越中全平野を下瞰すれば、常願寺・神通の諸川皆富山灣に朝宗し、日本の渺茫を見る。大自然の莊嚴に驚く。劍嶽 劍嶽は立山連峰の最北に峨々として鋸齒狀をなして聳え立つ。槍・穂高と共に日本アルプス中の峻嶮。登山は鐵道による富山口か、又は黒部溪谷に沿ふ黒部口からが普通である。黒部峡谷 山の立山に對して、水には黒部溪谷がある。日本アルプスの

北部の最も雄渾なる二大山系、立山山系と後立山系とが、神秘力を合せて作成せる一大峡谷、黒部は天下の絶勝である。二十里の幽深なる大峡谷、萬年雪層下を流れ來れる八千八谷の水を綜合して、百尺の懸崖を劈き、千數の峻巖を刻み、碧溜り、白跳つて、潜龍の如く、躍虎の如く、淵黙し、瀑吼え千古斧鉞を知らぬ原始林は、左右に鬱茂して、景をして、益々神怪ならしむるもの、黒部は實に山水の奇を極盡して居る。而も十數年前までは、其名が示す如く、奥深く影黒き魔の谷として、人の容易に近づくを許さなかつた所、今や黒部鐵道其他の努力開鑿によつて、この造化の秘奧も、開發さるゝに至つた。黒部鐵道 は北陸本線三日市驛から發し、五十分にして、黒部溪谷の關門宇奈月に達する鐵道は省線各線各主要と連帶して、團體割引其他の規則、凡て鐵道省と同一の取扱を爲し、春夏秋冬の各季節には、是等省線の主要驛から、宇奈月行割引乗車券も發賣される。宇奈月温泉 は立山・後立山兩山系の餘波たる彌太藏・馬の背・五千僧・烏帽子などの翠巒に圍まれた高臺で、黒部の清流その臺下を繞り、幾多の高樓大厦其上に盛られて、恰も大きな島臺を見る如き仙境である。嵐氣切々身に迫つて夏知らぬ涼しさは勿論、春の新緑は巖頂の殘雪と對照し、秋の紅葉に至つては、全峡谷を錦繡化する。冬は又スキーの壯快あり、四時飽くを知らぬ勝地である。因に宇奈月温泉は黒部鐵道の常務後藤清造氏の企畫開拓に成るもので、大正十二年からの施設が今や日本の一名所となるに至つたものである。【泉質】含鹽碳酸泉で、無色透明、中性反應微かに硫臭を含み、晝夜間斷なく湧出し

て、攝氏九十六度の温度を保ち、腺病質・痔瘻・リウマチス・慢性皮膚病・婦人病・胃腸病等に特効ある。

【旅館】は規模宏壯、内容優雅なもの多く、衛生上の諸設備行き届き、浴槽なども廣びやかに美しい。延對寺別館（電話三〇・三一） 富山館支店（電話三三・三四） 河内屋旅館（電話三六・四四・五九） 宇奈月館（電話七・六） 水月館（電話三一・三） 延樂（電話六二） 金山旅館（電話四五） 坂井館（電一九） 桃原館（電二九） 芳友館（電四〇） 宿料三圓以上 宇奈月温泉湯元（全部自炊部）不老館―洗心館―恒春館

黒部峡谷探勝 宇奈月温泉より軌道に便乗を求め、黒部本流右岸に沿ふて溯る。幾多の隧道に吞吐せられ、移り變る山水の風光は、披いて盡きざる繪巻物を見る如くである。【黒薙温泉】宇奈月より約九キロ、更に行くこと一軒二見温泉がある。共に山紫水明の別天地。【錦織關】黒部の奔流が東鐘釣山脚に咆哮する處、山水の妙趣を極む。久邇宮殿下の御命名にかゝる。【鐘釣温泉】鐘釣驛より百米餘、石灰岩の間より湧き、無味無臭、玲瓏透明、天然の大岩窟内に湛へて天然浴槽を形成する所、天下の奇觀。【景雲峽】鐘釣より徒歩約六軒、ガラ谷・ウド谷・小屋ノ平等より小黒部の吊橋を渡り、一坂を攀ぢて景雲峽（猿飛）に達す。この間約二時間。此地一帯非凡の風光は、先年梨本宮殿下によりて景雲峽の名を賜はりたるもの。立山方面 第一日宇奈月温泉發、鐘釣温泉一泊、第二日小黒部尾根を辿り、池ノ平小屋に一泊、第三日其處を發して劍澤を經、劍小屋又は別山乗越小屋に一泊、第

四日別山より南走して立山頂上雄山神社に參拜、室堂小屋に一泊、其れから先は立山登山路にある富山方面に下り、又は信濃方面に聯絡する。白馬方面 第一日宇奈月温泉から鐘釣温泉まで軌道に便乗し、同温泉を經て祖母谷温泉小屋に入り一泊、第二日早發、清水路又は中背新道を經て、鐘岳より白馬頂上小屋に着泊、或は南越を經て大黒より八方小屋に至り一泊、第三日唐松岳より北走して白馬小屋に至り、白馬頂上からは、信濃四ツ谷方面に下り、或は白馬から蓮華温泉を經て、糸魚川に下るコースもある。高岡市 富山市と共に富山縣に於る二大市の一、【射水神社】高岡公園内にあり、此縣唯一の國幣中社。祭神は二上神。境内幽邃崇敬の念に打たる。【高岡城址】市の東方に在り、慶長十四年前田利長が、加・越・能三州中の形勝を卜して築いたもの。明治八年城址を公園となす。【富山高等學校】本校は富山市郊外上新川郡大廣田村に在り、七年制の高等學校で、地方唯一のものに屬する。立山温泉 常願寺川の上流湯川の左岸にある。夏季立山登山を目的とする浴客が多い。【笹津橋】富山市の南四里、飛驒街道中神通川の架橋。兩岸奇巖峭立、風景絶佳。滑川町 富山市の東北四里の海岸にあり。縣立水産學校がある。人口一萬千餘、賣藥・籐表・螢鳥賊の産地として有名。魚津町 富山市の東北約六里の海岸にあり、戸數二千四百餘、人口一萬三千五百餘、海陸の要衝に當り下新川郡内一の繁華なる街で、有名な水族館がある。【蜃氣樓】魚津浦の蜃氣樓は最も著名で、春夏の季節、殆ど海上全面に互り、水面近く、或は橋梁の如く、市街の如く、或は長大に、或は

短縮し、變幻出沒の妙を極む。【螢鳥賊】一名コイカ又はマツイカと稱し、四月中旬より七月上旬まで、魚津沿岸に最も多く漁獲せらるゝ珍動物にして、其の身體より發する螢光は、強烈なる青紫色を呈し、海中にありて明滅するを以て、夜間海中に幾千萬の大集團となりて遊泳する時は、恰も海中イルミネーションの如く、美觀言ふべからず。是亦他に類を見ざる所、蜃氣樓と共に、魚津浦の二大奇觀と稱せらるゝ所以。小川温泉 小川温泉株式會社の經營に係り、湧出地は泊町の東南二里半、小川の上流山崎村薬師山の麓にあり。下流二里の泊町に引湯せるもの。亞爾加里性炭酸泉、慢性腸加答兒其他諸病に有効。八尾町 富山市の西南四里、高山本線に沿ふ。戸數千五百、人口七千、蠶絲業縣下第一。著名な小原節の本場。山田温泉 八尾町の西二里、婦負郡山田村湯村にあり、四面綠樹鬱鬱、鹽類泉、消化器病等に特効がある。【恒性皇子御墓】射水郡二塚村にある、後醍醐天皇第十六皇子、元弘二年北條高時の爲に越中に遷され給ふ。後越中守護名越時有之を弒して尊骸を此の地に葬り奉つた。明治四十五年御陵墓と確定、大正四年七月奉告祭を執行。【伏木港】高岡より鐵路七軒、小矢部川の河口にあり、明治三十二年開港場に指定、今や海陸連絡の設備完成、輸出入貨物逐年發展本邦各港中重要な地位を占めてゐる。伏木町は古の國府、戸數三千餘、人口一萬五千、工業も盛大である。新湊町 小矢部川を隔て、伏木港の右岸にあり。戸數五千五百、人口三萬八千、富山・高岡市に亞ぐ市街で、漁業が盛大。【放生津潟】新湊町の東端に在つて、周圍一里二十町餘、越の湖とも

稱し、風光明媚、夏季避暑遊覽者多い。氷見町と唐島 高岡の西北三里半の海邊に在り、能登往來の要衝に當る。戸數六千六百、人口一萬九千、海岸一帯魚類に富み、就中鱒・鮭・鰯等は最も有名、又縫針が名産。同町漁港地先に、奇巖怪石の孤島唐島がある。夏季雅客遊覽の島として名高い。【十二町潟】氷見町の西南にあり、一に布勢湖といふ。大伴家持卿遊覽の地として名高い。湖に生ずる鬼蓮は本邦固有の巨大なる水草で、天然記念物に指定。【義經雨晴】氷見郡太田村太田字岩崎の海岸にある。文治年中源義經奥州落の途次、此處で驟雨を霽したと傳ふる所。海岸一帯海水浴場として知らる。【大境洞窟住居址と蛇ヶ島】氷見郡宇波村大境にあり、富山灣に面した丘陵山脚にある洞窟で、入口の幅五十八尺、高さ約二十尺、奥行百十八尺穹窿状を呈し、奥壁の底部から清水が湧出し、石器時代の居住と鑑定、史蹟に指定せられた。又氷見町より灘浦一帯の海邊は風光絶佳であるが、特に女良村地先の蛇ヶ島には、暖帯植物繁茂し暖寒流交錯の所として、學術上重視されて居る。【高瀬神社】東礪波郡高瀬村鎮座國幣小社、祭神は高瀬神。出町 礪波平野の中央にあり、郡内樞要の地。井波町 加越鐵道福野驛より東約五軒、八乙女山の麓にありて絹織物及彫刻が著名。【瑞泉寺】眞宗大谷派別格別院、本願寺第五世綽女上人を開祖とす。後第八世蓮如北國に下るに及んで、門徒靡然として集り、遂に一向一揆と化して兵馬の權を握り、城廓を構へ、坊主大名二十七名、坊號十八名與力付大身五名、末寺は加・越・能三ヶ國で百七十ヶ寺の多きに及んだ。其の後佐々成政の爲に全滅された

が、天正十七年元の地に再建、毎年七月の太子傳會には、參詣者多く版賑を極める。大牧温泉 東
 礪波郡利賀村に在り、庄川峽に臨む景勝地。【泉質】は鹽類泉。護國八幡宮 埴生村埴生に在る縣
 社で、壽永二年木曾義仲願文を奉納して戦勝を祈つてより、其名世に顯はれた。拜殿は寛永十年の再
 建、社殿は國寶に指定された。石動町 縣最西の町で、富山より三十五軒、金澤より二十五軒、戸
 數千七百、人口七千八百。【礪波山古戰場】北陸街道加賀。越中の國境に聳ゆる山で、峰に不動明王
 を勸請してあるから、一に俱利伽羅峠とも名づける。壽永二年五月十一日木曾義仲平軍を夜襲した有
 名な古戰場で、後承久の役、官軍の仁科盛遠・宮崎定範が、北條方名越朝時を防ぎ戦死せるも此山。

今上天皇東宮に在せし時の御歌

立山の空にそひゆるを、しさにならへとそ思ふ御代のすかたも (八頁)

明治天皇御製

あま雲もいゆきは、かる富士のねをおほふは春の霞なりけり (一四頁)
 いづる日の光もそひて山ざくらまばゆく見ゆる花のいろかな (一五頁)
 朝づく日つゆにか、やく草村にのこりてもなく蟲のこゑかな (二二頁)

(前記御詠御歌本文中謹載の節漢字と假名の遣ひ分けに二三書き違ひの存在を
 發見致し恐懼に不堪、茲に謹訂致します)

- 本館の特色
- 一、上野驛構内の位置に在る事
 - 一、軌道車道を横断せず出入安全なる事
 - 一、四通八達之地にして而も閑靜なる事
 - 一、實質本意で精神的待遇
 - 一、男女の浴場と客室の出入口を異にする事

東京上野驛前東口

ふじや旅館

館主 青柳磯一
 東京市下谷區上車坂町三番地
 電話根岸(87) 三四二一
 サシヤ 三四二二
 番

- 一、團體様御宿泊料の儀は御豫算により御相談に應じます。
- 一、着驛並に時間御知らせ下されば御出迎へ申上げます。
- 一、御希望により市内の御遊覽御案内致します。

高感、きせんた
浅田 飴
 劑適の若弱産

東京市品川區東大崎五ノ三

葦澤醫院

電話大崎(40) 一三四九番

内科 外科 肛門病科
 入院 應需

院長 葦澤孫左衛門

醫學博士 興津 磐



信州小縣郡西内村
鹿教湯温泉

齋藤旅館

齋藤寛吾
電話(西内)三番



スキー・避暑・
遊覧に好適

海拔四千三百尺の
菅平高原

菅平ホテル

別館

望岳荘

鐵道省

山の家

設備完全、宿泊料
低廉、眺望絶佳

上田市より交通
通信機關完備

三
SANKYO
共

の純良薬品

疲勞恢復に **オリザニン**

鈴木梅太郎博士發見の強力ビタミンB類
(末・錠・液・エキス・注射液)

食慾不振、消化不良に **タカチアスターゼ**

—澱粉以外も完全消化—
(30錠・100錠・200錠)

腸疾患に **ラクトスターゼ**

乳酸菌酵素と發育促進性ビタミン
を含む整腸劑
(錠劑 50錠・粉末 30瓦)

高血壓に **ノルマトン**

副作用なく効力持續的
(末) 25瓦 (錠) 30錠 外に注射液あり

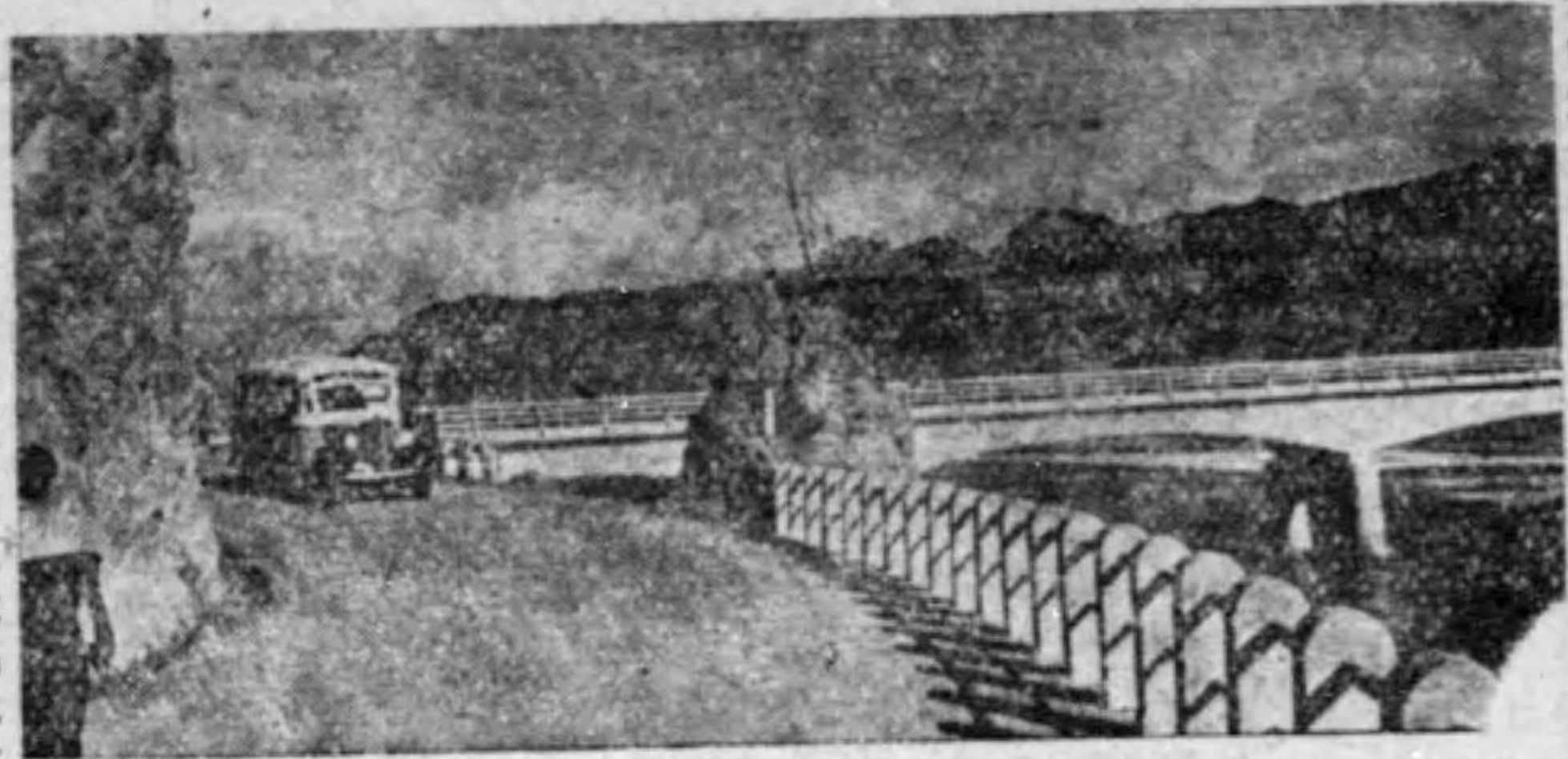
強力男性ホルモン **ゲネルモン・エム**

男性生殖腺中の總有效成分を含有
(錠劑) 20錠 (外に注射液あり)

強力女性ホルモン
オバストロン

(注射液)

三共株式会社



善光寺詣りと更生療養の旅には是非：

…清流千曲河畔の戸倉温泉を御加へ下り

鐵道省御指定
東亞旅行社

笹屋ホテル

電話
戸倉持長三番・一〇番
上山田一三番
戸倉一〇三番(貨別莊)
戸倉三四番(驛前支店)

東京出張所
下谷區御徒町三ノ九
電話下谷(8)六六四五番

—温泉付貸別莊— 案内書呈

【順路】

東京方面—上野より六時間、信越線戸倉驛下車、バス五分
關西中京方面—名古屋より六時間、中央線越前驛下車、バス五分



寫眞は菅平スキー場

保健と療養の旅には

是非別所温泉を御加へ下り

鐵道省御指定
東亞旅行社

家庭庭的

内湯
旅館

柏屋旅館本店

電話(別所)一一番

【交通】

信越線上田驛より

電車・バス・共に三十分

清風園支關口



- 一、當温泉は驛より坦道僅かに十五丁
- 一、當園用地は六千餘坪大中廣間、野天風呂大浴室、貸切浴室、浴室付貸別荘あり
- 一、娛樂室、プール、温室等の設あり

信州千曲川畔の温泉郷

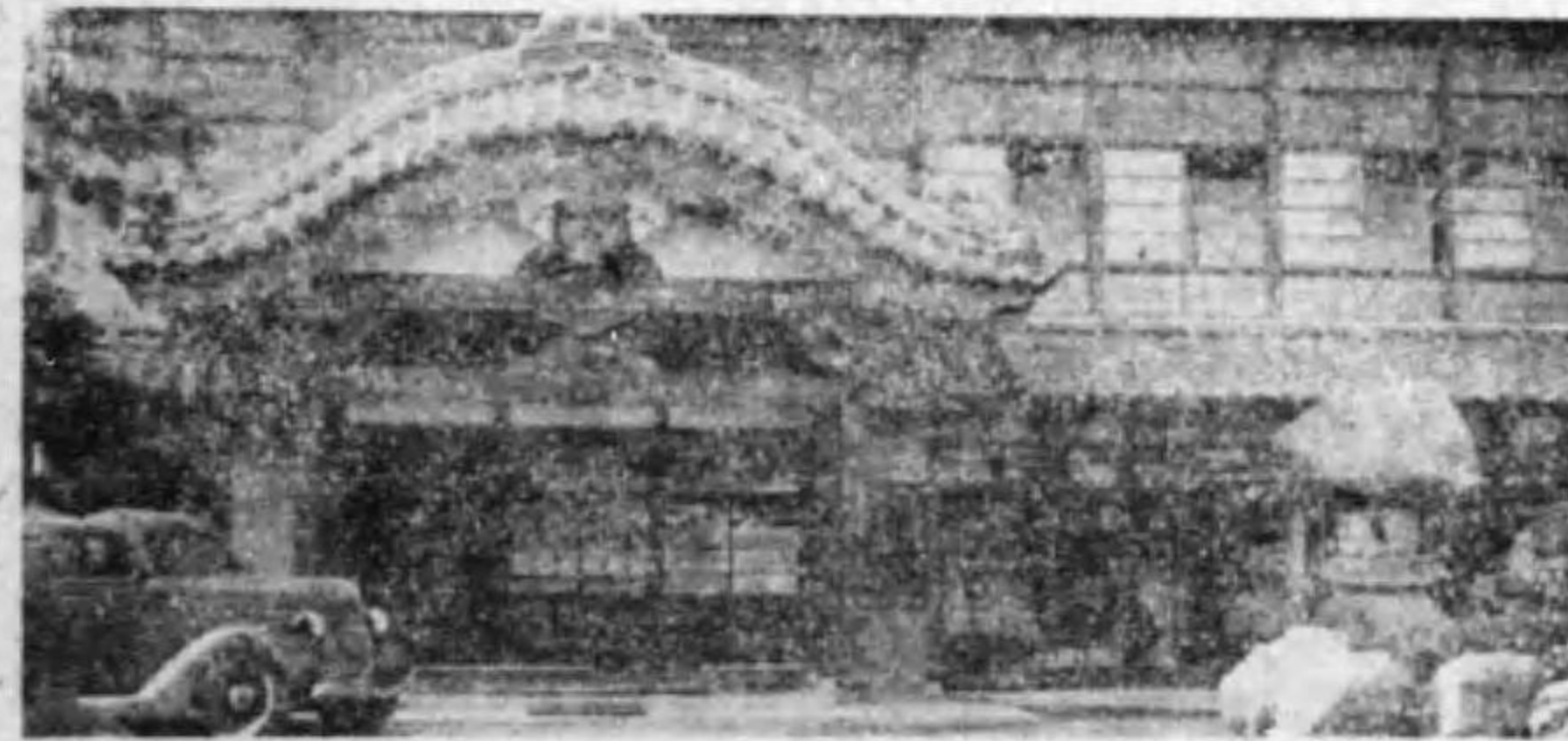
鐵道省指定 東亞旅行社

清風園

電話 上山田 一五六番
戸倉 三六番

【順路】 信越線戸倉驛よりバス五分
中央線姨捨驛よりバス二十分
長野、上田より乗合自動車四十分毎

本館支關



浴場付貸別荘
家庭風呂

信州上山田温泉
東亞旅行社指定

圓山莊

電話 上山田 一〇九九番
戸倉 七五番

【交通】 信越線戸倉驛下車
バス五分

信州澁温泉 市街の中央大湯前

鐵道省 東亞旅行社 指定御旅館
善光寺

山本館本館

電話湯田中 一番

別館得中閣

電話湯田中 一三九番

記念建物 竹 仙居 (果享翁畫室)

館主 兒玉雄松

信仰と保健の旅は

善光寺郊外志賀高原山麓

安代温泉を御加へ下さい

信州安代温泉

鐵道省 東亞旅行社 御指定

山口屋旅館

内湯 寶永ノ湯・胃腸ノ湯

電話湯田中 本館 一三五番
別館 一五五番



附近 寢覺の床、小野瀧、棧、鞍馬
 峡、氷ヶ瀬、常盤橋、木曾義
 仲の墓、德音寺

御嶽御登山には

御嶽自動車を御召し
下さい

戦勝祈願の爲め

町島福會木
御嶽自動車商會

番四五・五一二話電

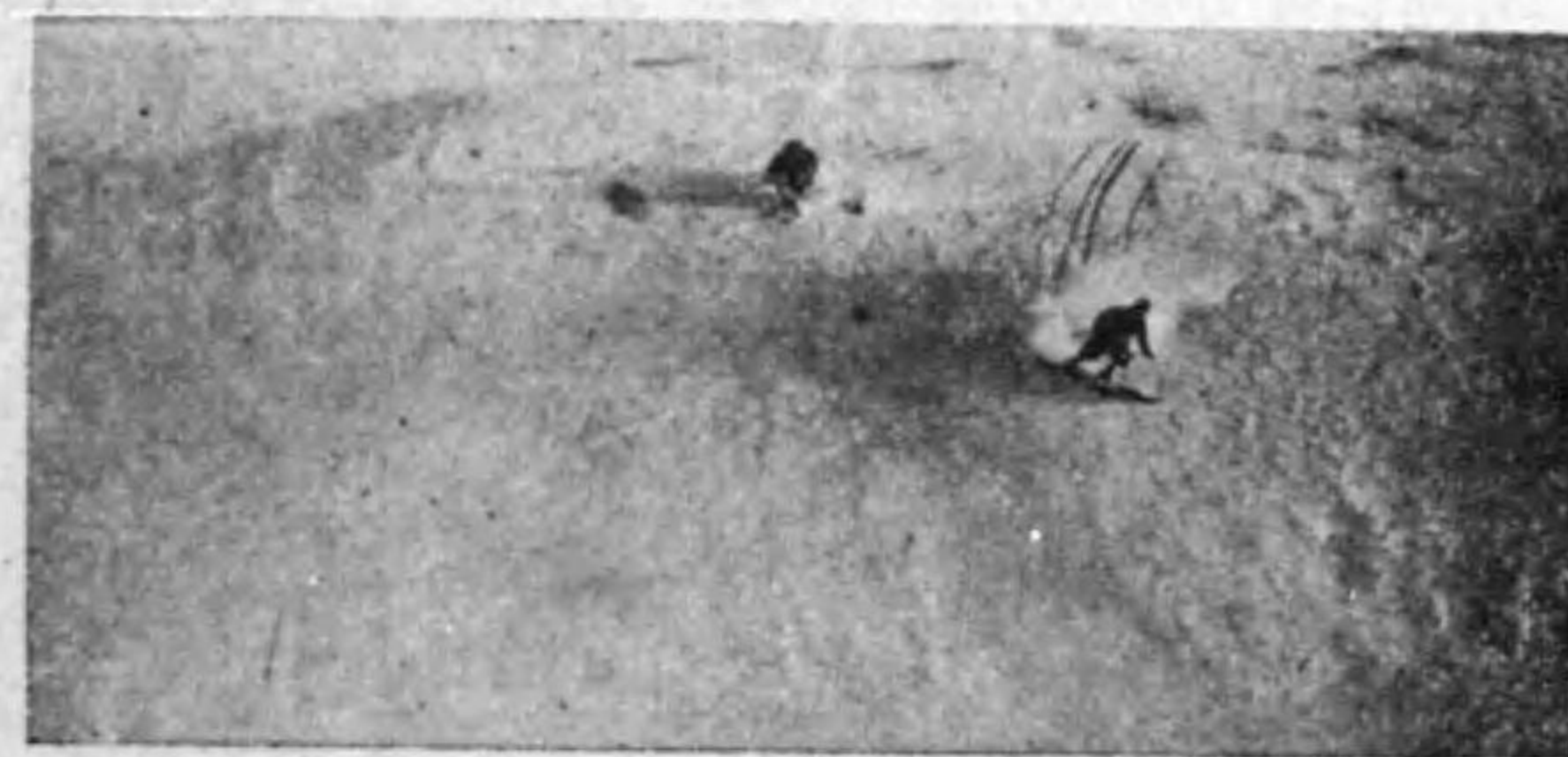


望
山
莊

信州平穩湯田中温泉

定くて
 便利で 貸別荘と温泉旅館
 粹な

電話湯田中 二一三番
 二二三番



野澤温泉

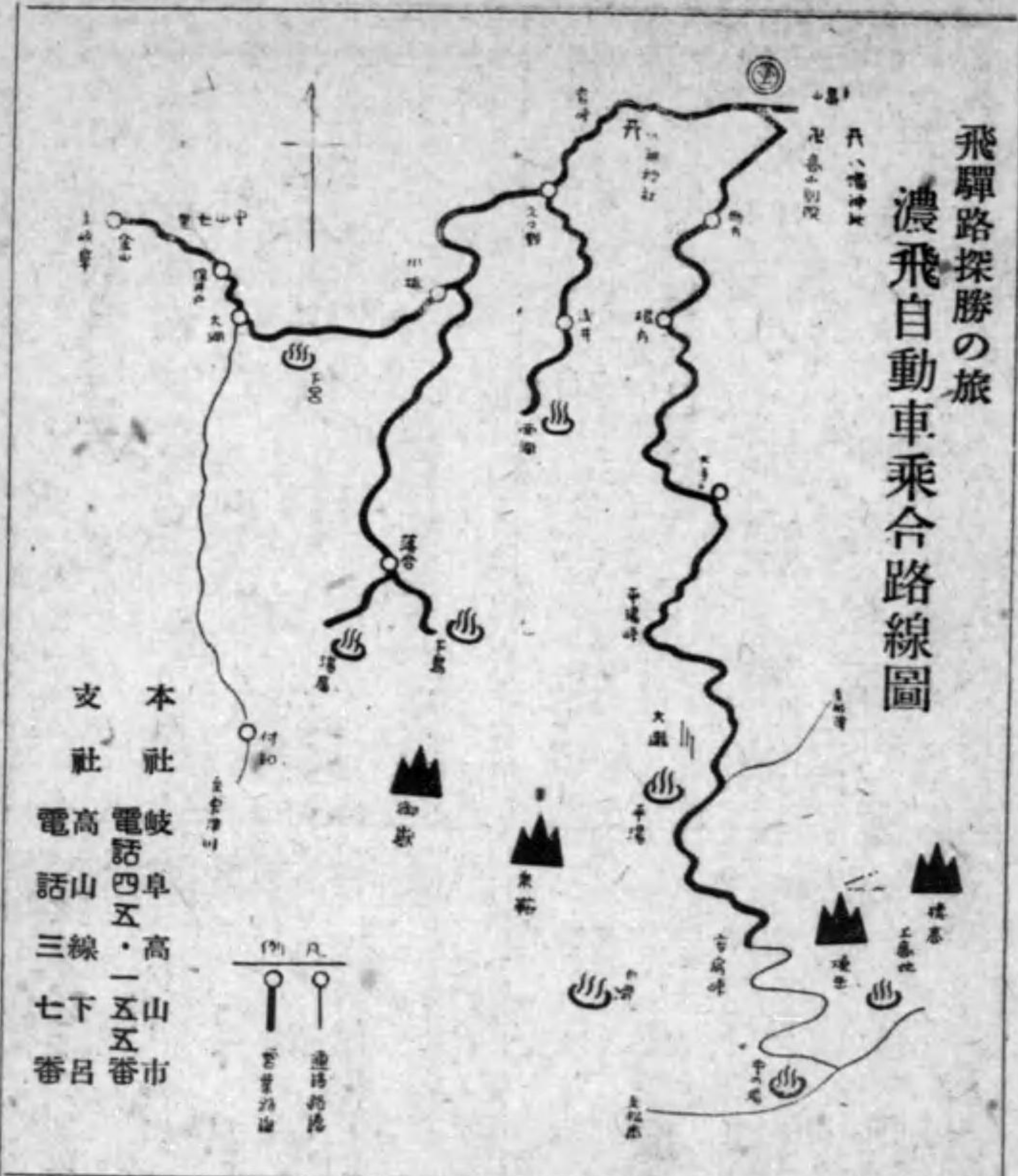
野澤温泉ホテル

電話(野澤温泉)一一番



| | |
|--|---|
| <p>鐵道省御指定 東亞旅行社</p> <p>旅館 松月</p> <p>茶代 廢止 クーパーン券泊五圓</p> <p>電話(舞阪)二二番</p> | <p>辨天島 電話(舞阪)六番</p> <p>旅館 丸文別莊</p> <p>茶代 廢止</p> <p>旅館 丸文本店</p> <p>名古屋市西區上岡町二番 電話一五〇〇三番</p> |
| <p>鐵道省御指定 東亞旅行社</p> <p>旅館 茗荷屋</p> <p>電話(舞坂)三番</p> | <p>辨天島(舞阪)三一番 電話一五六番</p> <p>しめ鯛</p> <p>旅館 開春樓支店</p> <p>旅館 開春樓本店</p> <p>濱松市肴町 電話(濱松)四六三番</p> |

| | |
|--|---|
| <p>美術 沈金、蒔繪、漆器 本堅地、膳、碗、家具 記念品、贈答用品各種 製造元より需要家への販賣店</p> <p>長野縣木曾平澤</p> <p>西 手塚保衛</p> <p>手塚保衛</p> <p>電話平澤二六番 振替口座長野六〇一一番</p> | <p>内外國博覽會優等賞受領</p> <p>高級漆器 製造元 中央線木曾平澤</p> <p>登錄商標 手塚萬右衛門商店</p> <p>店主 手塚定太郎</p> <p>電話(平澤)二二番 振替口座(長野)一〇八九番 (東京)一六四番</p> |
| <p>鐵道省御指定 東亞旅行社</p> <p>信州木曾福島町</p> <p>岩屋本店</p> <p>電話一五番</p> | <p>外 婦人科 耳 鼻 喉科 內 科 X 物療科</p> <p>診察 午前八時より午後六時迄 公休 毎月一日、十五日 入院 賄付自炊隨意</p> <p>中央線木曾福島驛</p> <p>院長 醫學博士長坂清人</p> <p>電話六五番</p> |



飛騨路探勝の旅
濃飛自動車乗合路線圖

本社
電話 岐阜
電話 四五
電話 山一
電話 三線 高
電話 七下 山
電話 番 呂 五
番 市

凡
191
○ 本社
○ 支社
○ 電話
○ 路線

◇別館 大廣間百疊敷外客室
新設致御利用被下度

富春館
長瀬旅館

電話 四六八番
電話 四一三番

飛騨國高山市
二ノ町本局前

鐵道省
保健旅行協會 御指定
全國聯盟旅館

靜岡縣濱名郡赤佐村
瑞豐館 岩水寺溫泉ホテル
電話(二俣)二〇九番

靜岡縣濱松市鍛冶町
濱松ホテル
電話(濱松)二八八番

靜岡縣濱松市常盤町
常盤ホテル
電話(濱松)一九五六番

山紫水明湖名畔館寺



明石家
濱松市鳴江町
電話 一九〇番

保健と休養に！
東亞旅行社御指定

烹割旅館

水波館

濱名湖畔館山寺
電話 堀江二六番

國立公園日本アルプス優秀旅館案内

| | | | | |
|---|---|--|---|---------------------------------|
| 國立公園日本アルプス上高地 眺望第一樓 旅舎五千尺 電話(上高地)五番 | 國立公園日本アルプス上高地 清水屋 加藤純一 電話(上高地)九番 | 國立公園日本アルプス上高地 溫泉ホテル 帝國ホテル前下車三丁目 電話(上高地)八番 | 國立公園日本アルプス上高地 山宿西糸屋 奥原英男 電話(上高地)六番 | 國立公園日本アルプス上高地支關 中の湯 小林繼太郎 |
|---|---|--|---|---------------------------------|

飛彈平湯溫泉

| | | | | |
|-------------------------|---|---|---------------------------------|-----------------------------------|
| 國立公園日本アルプス上高地 湯本齋藤旅館 | 國立公園日本アルプス 乘鞍嶽ノ山麓 上高地ニ接スル仙境ノ靈泉 新湯新宅旅館 | 東亞旅行社指定 下呂水明館直營 鐵道省指定 平湯屋旅館 電話(平湯)五番 | 東亞旅行社・通信局指定 村山旅館 電話(平湯)九番 | 東亞旅行社指定 新築完成 船津屋旅館 電話(平湯)三番 |
|-------------------------|---|---|---------------------------------|-----------------------------------|

飛驒路・下呂溫泉

東亞旅行社指定
湯旅の會「同盟旅館」

內湯 望川館 中屋

電話飛驒下呂四八番

岐阜縣下呂溫泉

內湯 小池屋旅館

伊佐地爲七

電話(下呂)二九番

數寄をこらした

粹きな家

下呂溫泉

會席 御料理 日の出棧

電話(下呂)一二七番

愛知縣犬山橋畔

御料理 田中屋別館

電話(犬山)二九番
三四一番



(湯内) 泉温間浅州信

館旅湯之貴富

番六五一 } (本松) 話電
番九七八

(湯内) 泉温間浅州信

館旅柳小樓山觀

番八四〇五 } (本松) 話電
番八〇四

泉温間浅州信

ルテホ間浅

館旅湯のかた

番八三二 } (本松) 話電
番九六五

東亞旅行社 御指定
鐵道省各諸官衙

内湯ラヂウム泉

春は山櫻、夏は深緑、秋の紅葉最も好し
湧出地七ヶ處各浴室の設備あり

中部山岳國立公園
高瀬溪谷

嵐翠樓

葛温泉會社

大町事務所
電話(大町)一五番

主治効能 反應弱アルカリ性、胃腸病、神經痛、ロイマチス、婦人病、殊に皮膚病、創傷は特效の泉質を異にせる元湯あり
○ 旅館炊出し自炊何れとも御便利に取扱致します



中部山岳國立公園山麓

山紫水明の高原湖

木崎へ、

湖畔唯一の展望臺

臨水莊

道乃家

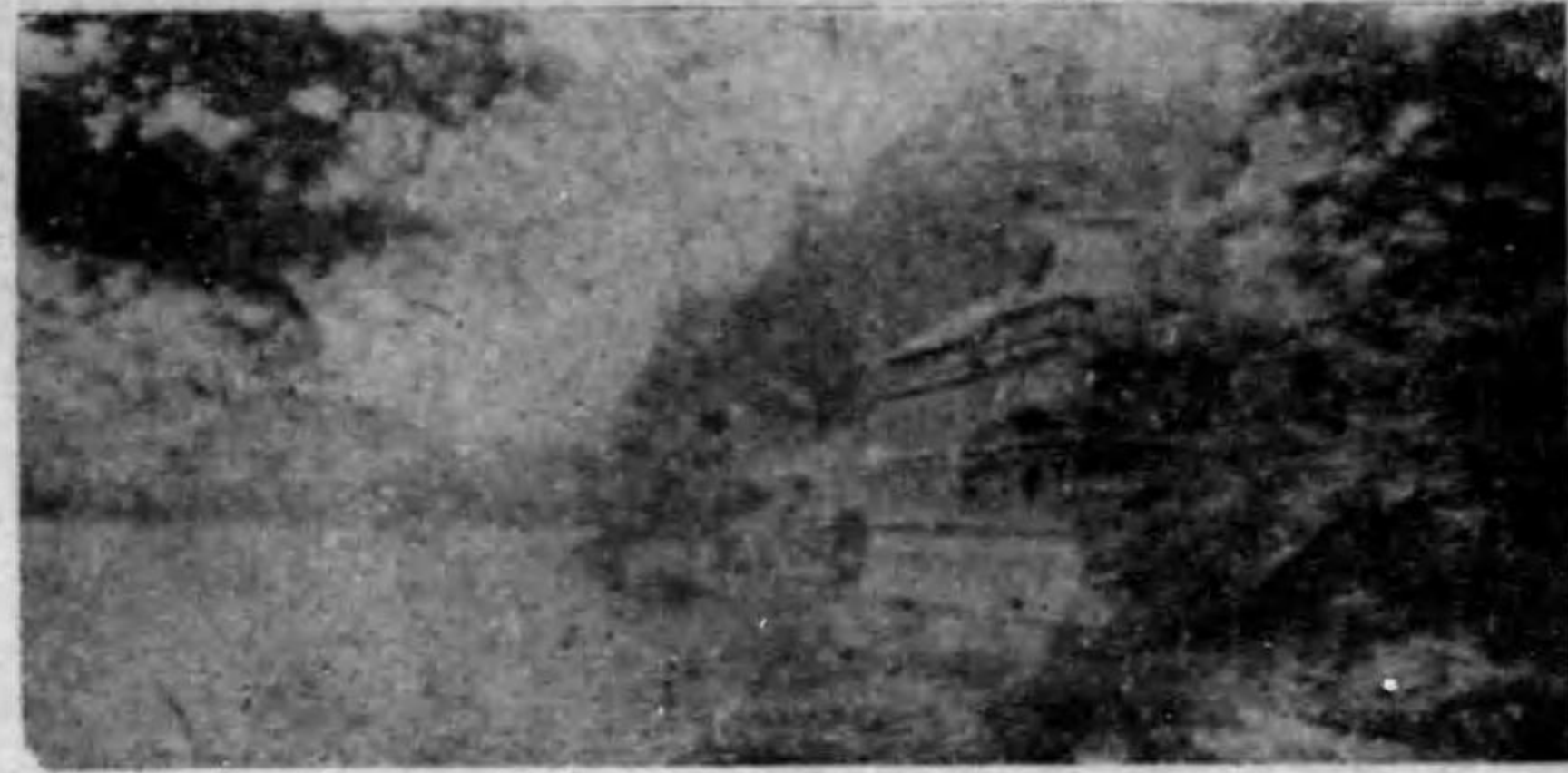
木崎湖ホテル

信濃公立短期大学を借用修繕建築として開放

臨水莊道の家

信濃木崎湖畔

館主 傘木 要



(犬山迎帆樓)

犬山城下

愛知縣丹羽郡犬山町

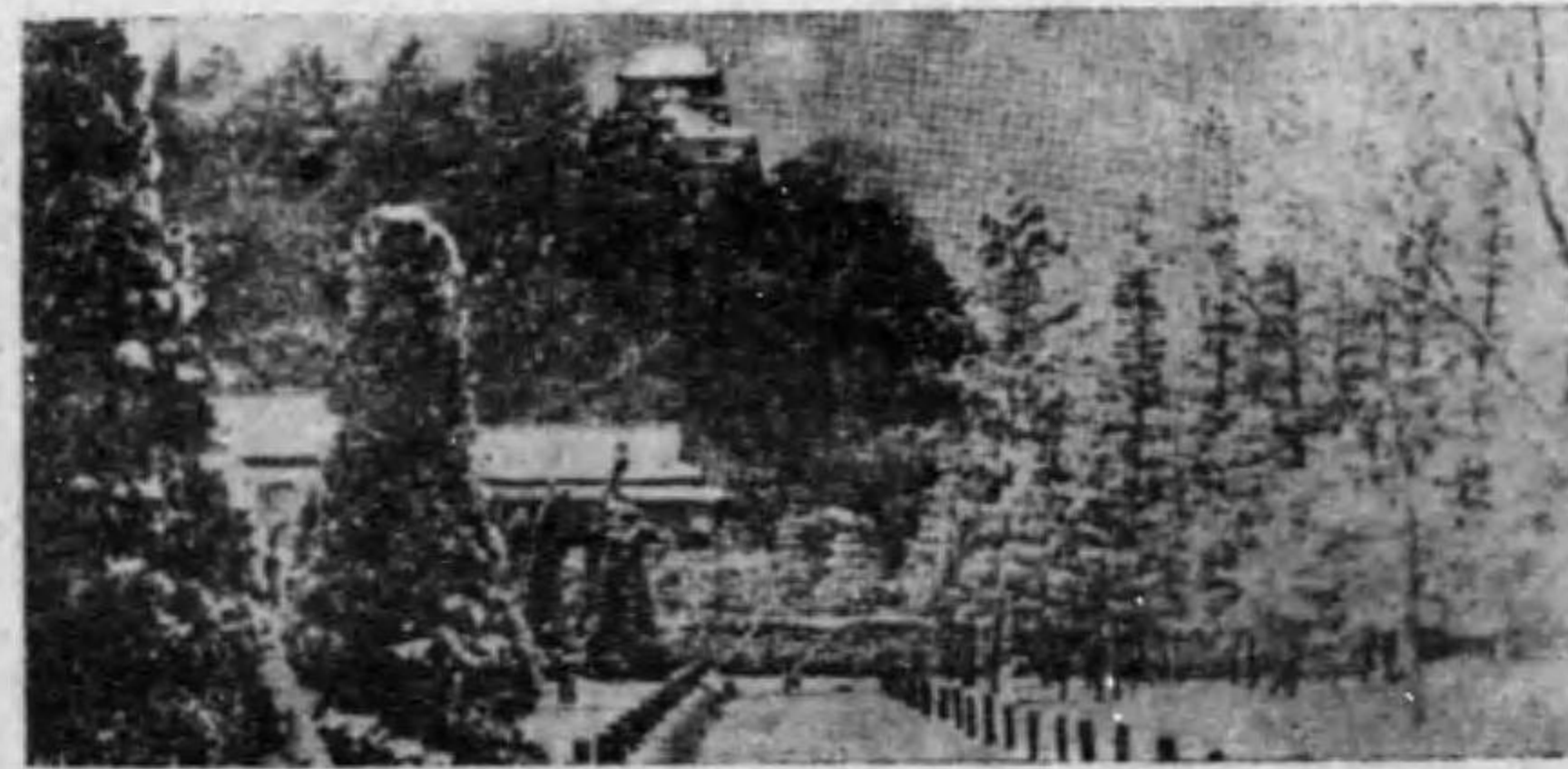
御料理・旅館

迎帆樓

旅館

迎帆樓別館

愛知縣丹羽郡犬山町
電話 犬山(一)一〇四番
三六一番



(彩雲閣の一部と犬山城)

犬山遊園地

愛知縣丹羽郡犬山町

御料理・旅館

彩雲閣

旅館

彩雲閣別館

電話二二四番



明治神宮献儀

長野縣北安曇郡常盤村

清水鎮雄經營

清水果樹園



電話(シ)又ハ(ツシ)
振替口座長野六二二番

日本園藝會會長野支會
園藝品評會一等賞受領
新潟縣農會主催全國
新園藝共進會一等賞受領
帝國農會主催全國優
帝國農會特別優良賞
果物品評會特別優良賞
並に農林大臣賞受領

信州東筑摩郡入山邊村

胃腸病
特效

扉鑛泉

早川冲廣



翠色滴る大井：
：惠那峽に御訪
ねの節は
是非厚生金龍
温泉をお加へ下
さい

鐵道省御指定
東亞旅行社
内湯旅館

金龍館

電話(大井)
七〇番
〔交通〕中央線大井
驛下車バス五分

富山

陸海軍
鐵道省 御指定旅館

日の丸ホテル

本 田 定 治
富 山 驛 前
電話 二五七三番

白馬登山越後口

第二師團 御指定旅館
東京地方逓信省

かんのや旅館

糸魚川驛前
電話(糸魚川)三番

湯谷温泉

鳳液閣

||三河の仙峽 鳳來峽||
鳳來寺鐵道湯谷驛前

温泉
旅館

日永樓

電話(三河大野)一五番

信州別所温泉

鐵道省指定

内湯
旅館

柏屋別荘

齋藤房雄
電話(別所)一二番

東京の真中で：閑静な家庭的旅館

廣瀬中佐銅像前
東京市神田區須田町一丁目九

高山旅館

電話神田25510番
省線萬世橋驛下車
市電須田町下車

特色
弊館は東京市の真中に在り、交通至便御商用に
御見物に最も便利の所であります。

下 諏 訪 温 泉

カメヤホテル

電話 二三番

丸屋旅館

電話 三三番

松本市本町

高美屋書店

高美實五郎
電話二五〇番

參謀本部地圖・松本市全圖
日本アルプス案内書・同繪葉書
新刊 松本及安筑郷土史話(定價壹圓)

明倫堂書店

松本市大名町
電話二七三番
二一〇一番

信州淺間溫泉

內湯旅館 龜之湯
電話(松本)一六九番

松本驛前

飯田屋旅館
電話二七番・六一四番

淺間溫泉

飯田屋別館
電話一五一五番

淺間溫泉

胃腸病・痔・神經痛

名藥湯 相生の湯
電話(松本)一八〇二番

信州淺間溫泉

內湯 はやしや旅館
電話(松本)一四八一番

松本市日ノ出町

片倉製絲株式會社
松本製絲所

電話(松本) 八五六番
六八〇番
六八五番

胃腸病名湯

屏溫泉 神明館

齋藤武茂

信州東筑摩郡入山邊村

槍ヶ嶽殺生小屋經營
大瀧山小屋

中村喜代三郎

|| 丁寧親切 ||



キリン印洋装雜貨製造發賣元
 高級ズボン吊、ガーターバンド
 アームバンド、カフス釦、カラー釦
 ネクタイ止、カラー止、沓下止類

キリンヤ商事株式會社

社長 山越孝一郎

東京市日本橋區馬喰町一丁目四番地

電話 浪花(67)七七二番
 振替口座東京六六三〇番
 東京市足立區本木町三丁目
 大阪市東區北久太郎町四丁目

工場
 大阪店

輕井澤 万平ホテル

電話(輕井澤) 22, 152番

當ホテルは明治二十七年からの創業で、待遇の懇切と丁寧迅速を以て久しく内外紳士淑女各位の御愛顧を得て居ります。輕井澤御避暑其他御遊覽の節は御用命の程を偏に希望致します。

衛生・通信等の：

設備完全

料金

【バス付十圓半以上】

期間

毎年五月より十月

食堂及グレル公開

犀北エチン

長野市縣町

本店 犀北館

電話 335・336・337

東京市神田區淡路町二ノ六

支店 佐々喜

電話 神田 25・26

東京市神田區三崎町一ノ八

支店 森田館

電話 神田 31・32・33

長野縣上水内郡信濃尻村

(信越線柏原驛下車)

野尻湖ホテル

夏期開業 電話野尻湖 一一番

綿羊部隊突進に依つて
 軍用羊毛の供出を多く
 し家畜肥料の利用に依
 つて食糧増産の實力を
 發揮して頑張るぞ！

土地改良研究所

田口林三

長野縣更級郡小島田村

下呂温泉



内湯旅館
水明館
電話 一四四二
二四五番
六番

(岐阜縣) 高山線下呂驛より専用道路一丁

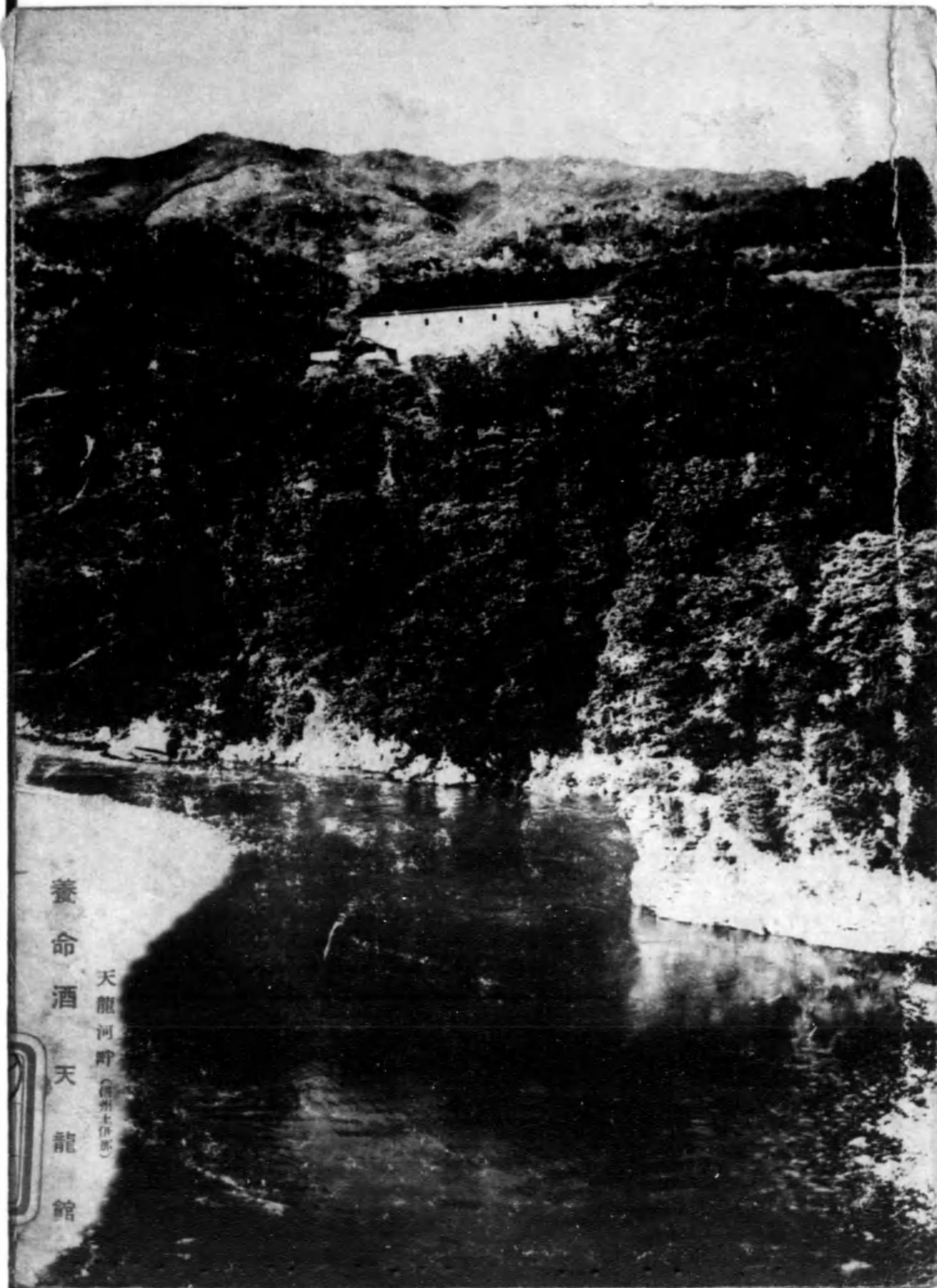
飛驒路を御訪ねの節は是非
療養本位の下呂温泉を御加へ下さい



平湯奇勝大瀧の壯觀 直下七十五間
(平湯温泉平湯館より約十町)

飛驒 平湯温泉 館
電話(平湯)五番 下呂水明館直管

終



養命酒 天龍館

天龍河畔 (德州土佐郡)